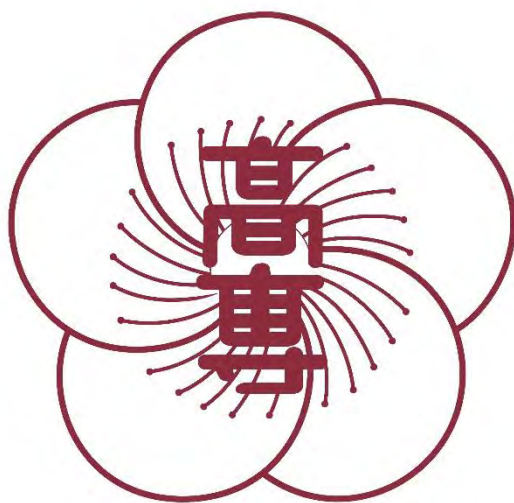


# 令和3年度 年次報告書

—委員会等による活動報告及び点検評価結果—



茨城工業高等専門学校

## 目 次

1. 学生の受入（入学試験委員会）	1
2. 教育内容等（教務委員会）	9
3. 教育内容等（専攻科委員会）	14
4. 学生支援（学生委員会）	17
5. 寮生支援（寮務委員会）	22
6. 広報活動（広報委員会）	26
7. 学生健康支援（学生健康センター）	30
8. 図書館運営（学術総合情報センター）	33
9. 情報化推進（学術総合情報センター）	41
10. 国際化推進（グローバル教育センター）	42
11. 男女共同参画推進（男女共同参画推進センター）	46
12. 地域連携・研究活動	
（副校長（地域連携・評価）、地域共同テクノセンター）	48
13. 教育組織（教員任用審査会）	55
14. 教育支援組織（事務部）	58
15. 教育支援組織（技術教育支援センター）	61
16. 予算及び施設・整備（総務委員会）	68
17. 安全衛生管理（安全衛生委員会）	72
18. 自己点検・評価（自己点検・評価委員会）	75

## 1. 学生の受入（入学試験委員会）

### （1）取組実績

#### ①入試広報活動

##### 1) 令和3年度地区別学校説明会の実施

例年7月下旬～8月上旬の土・日曜日に県内8地区会場で学校説明会を実施し、学校概要、卒業生の進路状況、入試制度等について説明を行っていたが、令和2年度に続き令和3年度も、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。

##### 2) 中学校進路指導担当教員対象学校説明会の実施

回	日 時	場 所	参加人数	合計
第1回	9月9日（木）14:00～16:00	本校大教室	35人	54人
第2回	10月18日（日）14:00～16:00	本校大教室	19人	

- ・開催案内通知は、茨城県内中学校に送付した。
- ・学校概要、卒業生の進路状況、令和4年度入学者募集要項及び出願手続等について説明を行った。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響による令和4年度入学者選抜における配慮事項について説明した。

##### 3) 中学校主催学校説明会

県内中学校からの依頼により担当者を派遣又はオンラインにて、高校進路説明会等において本校の説明を行い、ひたちなか市内の中学校では模擬授業も行った。

令和3年度は7月～11月までに15件の依頼があった。

##### 4) 中学校訪問

中学校教員対象説明会の開催案内に併せて中学校への説明派遣希望を伺い、申込のあった13校へ9月～11月に教務関係教員を派遣し、3学年担任会などで説明を行った。

##### 5) 一日体験入学・学校説明会

9月25日（土）・26日（日）にオンラインで学校説明会・見学会を開催。本校教員による学校説明、入試制度説明、キャンパス案内、学寮説明を行った。約350名の中学生が参加した。また、茨城高専公式YouTubeチャンネルで配信した。

##### 6) 学校見学希望者への対応

中学生及び保護者からの個別依頼に対応し、校内施設見学案内、学校概要説明、進路相談及び受験案内等を行った。

令和3年度は、9月～12月に中学校15校から生徒・保護者40人の見学者があった。

## 7)入試広報資料の作成

種 類	名 称	部数	備考
チラシ	学校説明・見学会 2021	30,000 枚	
ポスター	学校説明・見学会 2021	1,200 枚	
パンフレット	キャンパスガイド	5,500 部	
リーフレット	学寮案内	3,000 枚	
パンフレット	学校説明会資料	3,000 部	
リーフレット	受験のしおり	3,000 枚	
動画	学校説明・見学会 2021		YouTube
動画	茨城高専 YouTube チャンネル		YouTube

\*入試広報資料は、入試広報活動全般において中学生、保護者、中学校教員及び学習塾関係者等へ配布した。

\*入試広報資料及び入学者募集要項は、茨城県内中学校及び千葉県、栃木県の隣接中学校に送付した。

## 8)募集要項の作成

- ・令和4年度本科入学者募集要項 … 2,800部印刷、県内外中学校、学習塾等へ送付
- ・令和4年度第3学年編入学者（外国人対象）募集要項 … 高専機構で全国高専作成
- ・令和4年度第4学年編入学者募集要項 … 300部印刷、高等学校へ送付
- ・令和4年度専攻科入学者募集要項 … 300部印刷、全国高専へ送付

## ②入学試験委員会の開催

### 1)第1回

開催日：令和3年5月13日（木）

- 議題：1. 令和4年度専攻科入学者推薦選抜試験合格者判定について  
2. 令和4年度第4学年編入学試験業務日程（案）について  
3. 令和4年度第4学年編入学生募集要項（案）について  
4. 令和3年度本科入学試験状況及び新入生アンケート結果について  
5. 令和4年度入学者選抜試験日程（案）について  
6. その他

### 2)第2回

開催日：令和3年6月15日（火）

- 議題：1. 令和4年度専攻科入学者学力選抜試験合格者判定について  
2. 令和4年度本科入学者推薦選抜募集人員について  
3. その他

### 3)第3回

開催日：令和3年9月7日（火）

- 議題：1. 令和4年度第4学年編入学生選抜試験合格者判定について  
2. 令和4年度専攻科学生2次募集について  
3. 専攻科入試問題作成・編集・点検要領の一部改正について  
4. 本科入学試験問題作成・編集・点検要領の一部改正について  
5. タイ政府奨学金留学生・2022年度入学選抜合否判定について  
6. 令和4年度入学者募集要項（案）について  
7. その他

### 4)第4回

開催日：令和3年10月20日（水）

- 議題：1. 令和4年度入学者推薦選抜試験業務日程表（案）について  
2. 令和4年度入学者推薦選抜試験業務担当者選出人員（案）について  
3. 令和4年度入学者選抜学力検査、帰国子女特別選抜及び外国人特別選抜試験業務日程表（案）について  
4. その他

### 5)第5回

開催日：令和3年11月8日（水）

- 議題 1. 2022年度タイ高専（KOSEN-KMUTT）学生第3学年編入学試験に係る合否判定について  
2. 本科入学試験問題作成・編集・点検要領の「入学試験問題作成・編集確認表【議長&出題者用】」について  
3. その他

### 6)第6回

開催日：令和3年12月21日（火）

- 議題：1. 令和4年度専攻科入学者学力選抜試験（2次）合格者判定について  
2. 令和3年度専攻科入学者学力選抜試験（2次）成績合格者判定について

### 7)第7回

開催日：令和4年1月12日（火）

- 議題：1. 令和5年度入学者選抜試験日程について  
2. 令和5年度専攻科入学者推薦選抜試験業務日程表について  
3. 令和5年度専攻科入学者学力選抜・社会人特別選抜試験業務日程について  
4. 令和4年度入学者推薦選抜試験の実施について  
5. その他

### 8)第8回

日時：令和4年1月20日（木）

- 議題： 1. 令和4年度入学者推薦選抜試験合格者判定について  
2. その他

9) 第9回

日時：令和4年2月4日（金）

- 議題： 1. 専攻科推薦入試出願基準および専攻科入試出願書類について  
2. 入学者選抜に関する調査書等判定基準について  
3. 令和4年度入学者選抜学力検査の実施について

10) 第10回

日時：令和4年2月16日（水）

- 議題： 1. 令和5年度専攻科学生募集要項及び入学試験業務日程について  
2. 令和4年度入学者選抜学力検査及び外国人特別選抜試験の合格者について  
3. その他

### ③入学試験の実施

#### 1) 令和4年度本科入学者選抜試験

令和4年度入学者選抜においても前年同様に、「新型コロナウイルス等の感染症に対応した試験実施のガイドライン（高専機構学務課）」に基づき以下を実施した。

- ・新型コロナウイルス等による感染症に罹患し、又はその疑いがあり、本試験を受験することができなかった受験生を対象に「追試験」を実施することとした。
- ・学力検査及び推薦選抜における適性検査や口頭試問は、中学校新学習指導要領、教科書等に基づき作成した。
- ・学力検査において遠方に居住する受験生などの交通機関移動への不安解消のため、最寄りの受験地で受験できる「最寄り地受験制度」の導入を実施した。

#### ・推薦選抜（会場：本校）

- ・願書受付：令和4年1月5日（水）～1月7日（金）
- ・適性検査、面接試験：令和4年1月18日（火）
- ・合格内定者発表：令和4年1月24日（月）10：00 屋外掲示板（午後HP掲載）
- ・合格内定者入学確約書提出期限：令和4年2月9日（水）

※推薦選抜の追試験は実施なし。

#### ・学力検査選抜、外国人特別選抜（会場：本校）

- ・願書受付：令和4年1月25日（火）～1月28日（金）
- ・学力検査：令和4年2月13日（日）
- ・合格者発表：令和4年2月18日（金）10：00 屋外掲示板（午後HP掲載）
- ・合格者入学確約書提出期限：令和4年2月28日（月）

※帰国子女特別選抜試験及び学力検査選抜、外国人特別選抜の追試験は無し

- ・入学手続説明会：令和4年3月3日（水）
- ・新型コロナウイルス感染防止のため、分散受付で入学手続関係書類の配付、教材購入、体操服注文、入寮希望者面接を行った。

○ 令和4年度本科入学者試験状況

学科	入試全体					推薦選抜			学力選抜		
	募集人員	出願者数	受験者数	合格者数	出願倍率	出願者数	受験者数	合格者数	出願者数	受験者数	合格者数
国際創造工学科	200	281 (50)	276 (49)	204 (37)	1.4	97 (26)	97 (26)	59 (14)	220 (35)	215 (34)	144 (22)

※下段（ ）は女子で内数

学科	帰国子女特別選抜			外国人特別選抜			入学者数	タイ留学生入学者数	入学者数合計
	出願者数	受験者数	合格者数	出願者数	受験者数	合格者数			
国際創造工学科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	198 (36)	2 (1)	200 (37)

※下段（ ）は女子で内数

2) 令和4年度第3学年編入学試験（外国人対象）

国立高専機構本部統括による外国人（私費留学生）対象の第3学年編入学試験

\* 本校第3学年編入学試験（外国人対象）合否判定基準に基づき合否を判定

- ・令和4年度編入学募集においては、本校志願者がいなかった。

3) 令和4年度第4学年編入学試験

- ・編入学願書受付：令和3年8月3日（火）～8月5日（木）
- ・編入学試験：令和3年9月2日（木）
- ・合格者発表：令和3年9月10日（金）13：00 屋外掲示板、本校HP掲載
- ・入学確約書提出期限：令和3年11月26日（金）
- ・編入者説明会：令和3年12月7日（火）
- ・入学手続説明会：令和4年3月4日（木）

○ 令和4年度第4学年編入学者試験状況

募集主専攻系	出願者数 (高校:科)	受験者数	合格者数	入学者数
機械・制御系	0	0	0	0
電気・電子系	0	0	0	0
情報系	4 (機械1、普1、理数1、情報1)	4	2	2
化学・生物・環境系	2 (普通2)	2	1	1
合 計	6	6	3	3

4) 令和4年度専攻科入学者選抜試験

推薦選抜

- ・ 願書受付：令和3年4月27日（火）～4月28日（水）
- ・ 面接試験：受験者が全員本校学生のため面接は行わなかった。
- ・ 合格者発表：令和3年5月18日（火）12：30 屋外掲示板、本校HP掲載
- ・ 入学確約書提出期限：令和3年6月4日（金）

学力選抜（1次）

- ・ 願書受付：令和3年5月31日（月）～6月2日（水）
- ・ 学力検査：令和3年6月12日（土） 数学、専門科目  
※社会人特別選抜は、出願者なし
- ・ 合格者発表：令和3年6月18日（金）12：30 屋外掲示板、本校HP掲載
- ・ 入学確約書提出期限：令和3年9月30日（木）

学力選抜（2次）

- ・ 願書受付：令和3年10月18日（月）～10月21日（木）
- ・ 学力検査：令和3年12月18日（土） 数学、専門科目  
※社会人特別選抜は、出願者なし
- ・ 合格者発表：令和4年1月12日（水）12：30 屋外掲示板、本校HP掲載  
※合格者なし
- ・ 入学確約書提出期限：令和4年2月28日（月）

○ 令和4年度専攻科入学者選抜試験状況

産業技術システムデザイン工学専攻（募集定員：20人）

専攻科コース	推薦選抜		学力選抜			学力選抜(2次)			入学者数
	出願者数	合格者数	出願者数	受験者数	合格者数	出願者数	受験者数	合格者数	
機械工学	2	2	4	4	0	2	1	0	2



電気電子工学	6	6	5	5	2	1	1	0	6
情報工学	4	4	12	11	4	4	4	0	6
応用化学	4	4	3	2	2	0	0	0	5
合計	16	16	24	22	8	7	6	0	19

他高専・社会人の出願者なし

#### ④令和4年度外国人留学生の受入

学年	学科(系)	氏名	性	国籍	身分	備考
1年	国際創造工学科 (電気・電子系)	チットワッタナーコーン アー パーコーン	女	タイ	政府 派遣	第5期タイ 政府奨学金 留学生受入 事業
	国際創造工学科 (電気・電子系)	ロック ウェン フォン	男	タイ	政府 派遣	
3年	国際創造工学科 (機械・制御系)	ジティ スルファティハ ビンティ イ アシル	女	マレーシア	政府 派遣	
	国際創造工学科 (情報系)	ナイダンスレン ビヤンバ ス レン	男	モンゴル	国費	

#### (2) 自己評価(改善含む)及び課題

- ① 専攻科入学者学力選抜試験において、公表用模範解答の一部に記載ミスがあり、再発防止のために問題チェック体制を強化し、問題作成要領の一部を改正した。
- ② 本科推薦選抜の募集人員を現行の50名に15名を加え65名とした。追加の15名にも優先権を付与する。内訳は、M系6名、E系3名、I系3名、C系3名となる。
- ③ 専攻科が募集定員を満たしていないため、2次募集を行った。
- ④ 本科入試問題作成ミス防止のため点検確認を強化し、問題作成要領の一部を改正した。
- ⑤ 「入学試験問題・編集確認表【議長&出題者用】」について、高専機構入試業務内部監査において、学習指導要領、教科書等に基づいて出題範囲を確認することを記載するよう指摘を受け、このことを確認事項に追加した。
- ⑥ 国際創造工学科の1学科に改組して6年目の入試となったが、過去3年間の学力検査による選抜合格者の5教科合計(600点満点)の最高点、最低点及び平均点は次のとおりである。

	最高点	最低点	平均点	志願倍率
令和2年度	536	380	428	2.0
令和3年度	537	352	426	1.5
令和4年度	556	362	434	1.4
3年間の平均	543	365	429	1.6

#### (3) 今後の展開

- ・推薦で調査書の高さから合格ラインに達し、必ずしも学力が高い学生が入学していないと

の懸念がある。今後、調査書の評定点数をどの程度加味するかを考え、調査書評定の合格判定配点基準及び調査書様式について検討していく。

- 志願倍率が 1.4 倍まで下落したので、広報活動を積極的に行い、志願倍率を上げていくために戦略的な取組みを行う必要がある。

## 2. 教育内容等（教務委員会）

令和3年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、下記とおり対面授業と遠隔授業を併用して実施した。

4月3日（土）：入学式

4月5日（月）：始業式

前期は授業（実験・実習を含む）を対面にて実施

5月31日（月）～6月4日（金）：前期中間試験（対面）

7月26日（月）～8月2日（月）：前期期末試験（対面）

※7月27日（火）は台風8号の影響を考慮して終日前期期末試験を中止

8月10日（火）：前期授業終了

8月25日（水）～8月31日（火）：夏季集中講義をオンライン形式で実施

9月21日（火）：後期授業開始 全校集会をオンデマンド形式で配信

9月21日（火）～9月24日（金）：授業（実験・実習を含む）を遠隔で実施

9月27日（月）～9月30日（木）：実験・実習のみ対面授業

その他の授業は遠隔で授業時間割のとおり実施

10月1日（金）～：授業（実験・実習を含む）を対面にて実施

※10月1日（金）は台風16号の影響を考慮して終日休講（一部科目を遠隔授業にて実施）

11月15日（月）～11月19日（金）：後期中間試験（対面）

1月26日（水）～2月2日（木）：後期期末試験（対面）

3月4日（金）：登校日

3月18日（金）：終業式

3月19日（土）：卒業式・修了式

### （1）取組実績

学生の教科履修及び学籍等については、教務委員会において立案の上、次の活動を行った。

#### ①キャリア教育

国際創造工学基礎（1年）にキャリア教育を導入した。また、共有ドライブを活用して、就職情報を学生へ情報共有した。

#### ②ボランティア活動の支援

無報酬のボランティア活動で総活動時間が30時間のものは、「社会貢献」として単位化しているが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の影響を受けて学生を受け入れてくれる機関が少なく、「社会貢献」の単位認定は1名のみ。

③モデルコアカリキュラムによる教育の質保証の取組推進

CBTを12月22日(水)に本科2、3年生、(本科1年生)、12月23日(木)に本科1年生を対象に実施した。

④インターンシップへの参加推進

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、インターンシップの校内説明会を開催せず、Googleドライブに関係書類を掲載して、本科第4学年、本科第5学年及び専攻科学生へメールにてインターンシップに係る連絡をした。なお、インターンシップ報告会は、日程調整の困難さや新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。

令和3年度のインターンシップの単位認定者は本科14名、専攻科25名であった。

⑤セキュリティを含む情報教育

「情報リテラシー」の授業において、セキュリティを含む情報教育を行った。

⑥Webによる履修登録

令和3年度も令和2年度に続き選択科目の履修申請をMicrosoft FormsによるWeb登録方式にて行い、登録作業の効率化を図った。

⑦主専攻・副専攻の決定

国際創造工学科4期生(令和2年度入学)の主専攻・副専攻配属を本人の希望と成績順位により決定し、以下のとおり配属された。

<主専攻>	機械・制御系	82名(第1希望64名 第2希望16名 第3希望2名)
	電気・電子系	41名(第1希望37名 第2希望4名)
	情報系	41名(第1希望41名)
	化学・生物・環境系	42名(第1希望42名)
<副専攻>	機械・制御系	46名
	電気・電子系	46名
	情報系	46名
	化学・生物・環境系	40名
	グローバル系	28名

⑧規則等に関すること

実態に合った内容に修正するため、以下の規則の改正及び申合せの改正を行った。

- ・茨城工業高等専門学校学則の一部改正
- ・資格取得受験料補助金申請に関する申合せの一部改正
- ・定期試験(再試験含む)における学生の注意事項の改正について

⑨令和3年度教務委員会

令和3年度は以下のとおり委員会を5回、メール審議を22回開催した。

回数	開催日	議題
メール 第1回	令和3年4月1日	1. 茨城大学（前期）科目の履修について 2. 豊橋技科大 e-ラーニング（前期）科目の履修について
メール 第2回	令和3年4月6日	1. 転学について 2. 長岡技科大（1学期）科目の履修について
第1回	令和3年4月20日	1. 一日体験入学について 2. 仮進級評価について 3. 転学に関する教務委員会審議について 4. 令和2年度に転学願が提出された5名の転学について 5. 令和3年度休学願について 6. 令和3年度知識・技能審査による単位認定申請について
メール 第3回	令和3年4月23日	1. 学生の休学について
メール 第4回	令和3年5月13日	1. E系から3Eの留学生の日本語の能力に関する試験における配慮について
メール 第5回	令和3年5月26日	1. インターンシップの単位認定について 2. 知識・技能審査単位認定について
第2回	令和3年6月8日	1. 一日体験入学について 2. 仮進級評価について 3. 学生の転学について
メール 第6回	令和3年7月5日	1. 知識・技能審査単位認定について
メール 第7回	令和3年7月9日	1. 茨城大学（前期集中）科目の履修について 2. 休学について 3. 退学について 4. 社会貢献活動（事前）について
メール 第8回	令和3年7月15日	1. 学則改正（案）について
メール 第9回	令和3年7月26日	1. 他大学等履修申請について 2. 退学について

第3回	令和3年8月24日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 仮進級になった場合の系配属の優先権について</li> <li>2. ディプロマ・ポリシーおよび国際創造工学科のカリキュラム・ポリシーの変更について</li> <li>3. 茨城高専の特色あるMCCについて</li> <li>4. 社会貢献活動単位認定について</li> <li>5. 他大学等履修申請について</li> <li>6. 学生の復学について</li> <li>7. 学生の休学について</li> <li>8. 学生の退学について</li> <li>9. 教務関連申合せの一部改正について</li> <li>10. 成績評価について</li> <li>11. ワクチン接種に伴う特別欠席について</li> </ol>
メール 第10回	令和3年8月27日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 他大学等履修申請について</li> <li>2. 休学について</li> </ol>
メール 第11回	令和3年9月8日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 休学について</li> <li>2. 退学について</li> </ol>
メール 第12回	令和3年9月17日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 他大学等単位認定について</li> <li>2. 休学について</li> </ol>
メール 第13回	令和3年10月20日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 他大学等単位認定について</li> <li>2. 知識・技能審査単位認定について</li> <li>3. 休学について</li> <li>4. 転学について</li> </ol>
メール 第14回	令和3年10月29日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 転学について</li> </ol>
メール 第15回	令和3年11月2日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定期試験（再試験含む）における学生の注意事項の改正について</li> <li>2. 病欠等による欠席オーバーの取扱いに関する申合せ適用依頼について</li> </ol>
第4回	令和3年12月23日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 他大学特別聴講について</li> <li>2. 学則改正について</li> <li>3. M系のコース別順位付けについて</li> <li>4. インターンシップの単位認定について</li> <li>5. 知能・技能審査単位認定について</li> <li>6. 茨城高専の特色あるMCC</li> <li>7. 卒研審査用紙フォーマットの変更について</li> <li>8. 成績評価について</li> </ol>

メール 第 16 回	令和 4 年 1 月 19 日	1. 留学願について 2. 知識・技能審査単位認定について
メール 第 17 回	令和 4 年 2 月 3 日	1. 学則改正について
メール 第 18 回	令和 4 年 2 月 16 日	1. 復学について 2. 退学について 3. 知識・技能審査単位認定について
メール 第 19 回	令和 4 年 2 月 22 日	1. 他大学等単位認定について
メール 第 20 回	令和 4 年 2 月 28 日	1. 他大学等単位認定について 2. 知識・技能審査単位認定について 3. 復学について
メール 第 21 回	令和 4 年 3 月 7 日	1. 他大学等単位認定について 2. 退学について
第 5 回	令和 4 年 3 月 23 日	1. 企業実習の単位認定申請について及び卒業認定について 2. 休学について 3. 復学について 4. 退学について 5. 転学について 6. 令和 4 年度研究生について 7. 令和 4 年度聴講生について
メール 第 22 回	令和 4 年 3 月 28 日	1. 転学について

## (2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 令和 3 年度も令和 2 年度と同様に選択科目の履修申請を Microsoft Forms による Web 登録方式として登録作業の効率化を図った。
- ② 主専攻配属については、I 系と C 系はすべての学生が第 1 希望の配属となった。E 系は第 1 希望（90%）、第 2 希望（10%）の配属で、M 系は第 1 希望（78%）、第 2 希望（20%）、第 3 希望（2%）の配属となった。

## (3) 今後の展開

- ① 高専機構全体で進めていた高専学生情報統合システムの導入を高専機構本部が断念したことにより、平成 14 年度に導入してから現在まで使用している教務システムの更新について検討が必要である。

### 3. 教育内容等（専攻科委員会）

#### （1）取組実績

専攻科の教科履修及び学籍等については、専攻科委員会において立案の上、次の活動を行った。

##### ①専攻科入学者の確保

本科の学生が専攻科に魅力を感じて進路先として選択してくれるように、学協会で受賞した専攻科学生の記事、専攻科最優秀研究発表賞（旧：専攻科長賞）の受賞者の紹介及び専攻科ニュースを、本校専攻科 HP へ掲載した。

##### ②カリキュラムの改定

平成 29 年度に改組が行われた国際創造工学科 1 期生が専攻科へ入学するのに合わせて行うカリキュラムの改定に係る事項について、令和 3 年 9 月 29 日に大学改革支援・学位授与機構へ、学士の学位の授与に係る特例適用専攻科変更届出書と、専攻科に係る学則等の変更についての届出を提出した。その結果、令和 4 年 2 月 21 日に大学改革支援・学位授与機構から、特例適用専攻科に係る特例の適用認定の通知を受けた。

##### ③地域社会及び産業界との連携

令和 3 年度の特別実験において、地元の企業が抱える様々な課題を提供してもらい、本校の学生がそれらの課題解決に取り組み実践力を養うことを目的とした地域相互誘起型課題解決実践教育プログラム（Ibaraki Regional Mutually Inductive Problem-solving Practical Education Program 略して「MIPPE プログラム」）を実施した。

##### ④特例適用専攻科に係る変更の届出

令和 4 年度入学生から適用する学修総まとめ科目の指導教員 5 名の追加と 1 名の変更の届出を行い、指導教員 5 名の追加、1 名の変更が認められた。

##### ⑤特例適用による学位申請

特例適用専攻科として、学位規則第 6 条第 1 項に規定する学士の学位の授与の特例に係る学位授与申請を独立行政法人大学改革支援・学位授与機構に行い、専攻科 2 年生全員（26 名）が学位を取得した。

##### ⑥令和 3 年度専攻科委員会

令和 3 年度は以下のとおり委員会を 5 回開催した。

回数	開催日（期日）	議題
第 1 回	令和 3 年 5 月 14 日	1. R3 年度専攻科コース担当教員について 2. R4 年度からのカリキュラム改定および科目表の変更



		<p>申請の準備について</p> <p>(ア) 3つのポリシーおよび科目配置図について</p> <p>(イ) シラバスの作成について</p> <p>(ウ) 科目表の作成および確認について</p> <p>(エ) 学修総まとめ科目の授業に関する実施計画書（総表）の確認について</p> <p>(オ) 規則改正手続き（教育課程表の改訂）</p>
第2回	令和3年7月14日	<p>1. 単位認定について</p> <p>2. R4年度からのカリキュラム改定および科目表の変更申請の準備について</p> <p>(ア) 3つのポリシーおよび科目配置図について</p> <p>(イ) 教育課程表（案）の一部変更について</p> <p>(ウ) 学修総まとめ科目の授業に関する実施計画書（総表）の確認について</p> <p>(エ) 科目表の作成および確認について</p> <p>(オ) 新規科目、統合科目のシラバス準備状況</p> <p>(カ) 規則改正手続き（教育課程表の改訂）</p>
第3回	令和3年11月24日	<p>1. R4年度以降の特別実験について</p> <p>2. インターンシップの単位認定について</p> <p>3. 専攻科申し合わせの一部改正について（専攻科生のTOEIC公開テスト受講料補助）</p>
第4回	令和4年1月19日	<p>1. 専攻科推薦入試の出願資格について</p> <p>2. 定員割れ対策</p>
第5回	令和4年2月21日	<p>1. 専攻科2年生単位修得認定について</p> <p>2. 専攻科最優秀研究発表賞</p> <p>3. 専攻科生の修了に向けて</p> <p>4. 令和4年度入学予定学生へのガイダンス</p> <p>5. 入学式</p> <p>6. 隔年開講科目の旧カリキュラムと新カリキュラム混在時の対応について</p> <p>7. 特例適用専攻科の審査について</p>

## (2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 特例適用による学位申請については、今年度で4回目の対応であり、円滑に手続きを進め、専攻科2年生全員が学位を取得することができた。学生の申請不備はまだ一定数ある状況なので、来年度申請する学生に対し、申請時に間違いやすい点を周知する。

- ② 本科の学生が専攻科に魅力を感じ進路先として選択してくれるように、専攻科の活動の様子をホームページで積極的に紹介するようにした。今後も、専攻科の志願者が増えるよう本科の学生に対して魅力を周知していく。
- ③ 令和4年度に特例適用専攻科における教育の実施状況等の審査の実施について通知を受けた。令和4年5月末日までに提出が必要な書類の準備を進める。

### (3) 今後の展開

- ① 令和4年度に実施される特例適用専攻科における教育の実施状況等の審査について、専攻科科目を担当する教員に対して調書の作成を依頼するとともに、その他の書類作成を教務係で進めて、科目担当教員作成の調書と合わせて提出書類の取りまとめを行う。
- ② 特別研究の充実・成果発表の英語科については、今後も引き続き取り組んでいく。
- ③ 令和4年度も地域相互誘起型課題解決実践教育プログラム (Ibaraki Regional Mutually Inductive Problem-solving Practical Education Program 略して「MIPPEプログラム」)の実施を継続するため、協力企業を募集する。同時に、キャリア教育の一貫として、技術者、研究者、経営者による講演会における講師も併せて募集する。

## 4. 学生委員会

### (1) 取組実績

#### ①課外活動支援

課外活動支援の取り組みについては、コロナウイルスの感染に注意しながら活動を行った。

以下の部活において外部コーチを委嘱した。

- ・卓球部、弓道部、柔道部、吹奏楽部、茶道部、野球部、ロボット部

以下今年度の体育大会、コンテスト等での実績。

#### ■運動部

関東信越地区高等専門学校体育大会結果

- ・バレーボール競技：男子団体 優勝
- ・陸上競技
  - ：加藤 暢 男子やり投 3位
  - ：木村 悠瑚 男子走高跳 3位
  - ：平尾 健人 男子やり投 2位、男子円盤投 3位
  - ：渡辺 幸暉 男子400mH 2位
  - ：小山 瑠菜 女子走幅跳 2位
- ・ソフトテニス競技：男子団体3位
  - ：男子ダブルス 2位、女子ダブルス3位
- ・硬式野球競技：不参加
- ・卓球競技：不参加
- ・バドミントン競技：不参加
- ・剣道競技：中止
- ・柔道競技：中止
- ・水泳競技：中止
- ・テニス競技：中止
- ・サッカー競技：中止

全国高等専門学校体育大会

- ・水泳競技：高野広乃 女子100Mバタフライ 1位

全国通信弓道大会：神保 琥太郎 男子個人 優勝

：男子団体 準優勝

#### ■文化部系

全国高専プログラミングコンテスト 敢闘賞

廃炉創造ロボコン 技術賞

以下大会において大会の運営を行った。

関東信越地区高等専門学校体育大会

- ・バレーボール競技：7月3日（土）～4日（日）@ひたちなか市総合運動公園総合体育館

第50回関東高等専門学校サッカー選手権大会

- ・11月6日（土）～7日（日）@ひたちなか総合運動公園スポーツ広場

理事長表彰

- ・ 4M2 山田 海音（国際雑誌に査読付き論文を掲載・20以上の媒体で取り上げられた）

## ②学費に関すること

奨学金、授業料免除および就学支援金に関する情報は校内掲示板、HP掲載、保護者への文書通知等により情報提供を行った。

- ・奨学金一覧（○）は受給実績あり
  - ・日本学生支援機構 貸与型（○）
  - ・日本学生支援機構 給付型（○）
  - ・若築建設奨学金（○）
  - ・岸川光男記念奨学基金（○）
  - ・中川育英会奨学金（○）
  - ・朝鮮奨学会（○）
  - ・天野工業奨学金（○）
  - ・水戸市奨学金（○）
  - ・龍ヶ崎市奨学金（○）⇒新規
  - ・古岡奨学会奨学金
  - ・茨城県奨学金
  - ・オリエンタルモーター奨学財団奨学金
  - ・ウシオ財団奨学金
  - ・あしなが育英会奨学金
  - ・交通遺児育英会奨学金
  - ・アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学生
  - ・関育英奨学会
  - ・川村育英会
  - ・山新育英財団奨学金
  - ・ひたちなか市奨学金
  - ・日立市奨学金
  - ・大洗町奨学金

- ・つくばみらい市
  - ・常陸太田市
  - ・富山文化財団奨学金
  - ・日本国土開発未来研究財団奨学金
  - ・本庄国際奨学財団奨学金
- ・入学料免除（減免）：5名
  - ・授業料免除（減免）前期：全額免除（減免）23名 2/3減免10名 1/3減免9名
  - ・授業料免除（減免）後期：全額免除（減免）20名 2/3減免8名 1/3減免12名
  - ・茨城工業高等専門学校修学支援事業基金  
前期 1名、後期 0名
  - ・日本学生支援機構奨学生  
第1種 7名、第2種 4名

### ③学生会活動

- ・令和4年度学生会長選出
- ・伊藤愛基（情報系4年） 会長選挙投票率53%
- ・リーダーズミーティング
- ・学生会と学校長との懇談会
- ・校内レクリエーション大会（バドミントン）

### ④イベント

- ・芸術鑑賞会 中止
- ・校内体育大会 中止
- ・茨香祭 12月4日（土）オンライン形式で実施

### ⑤学生への安全指導

学生の安全指導に関し、以下セミナーを実施した。

- ・非行防止講演会（1年）オンライン
- ・薬物乱用防止講演会（2年）オンラインと対面
- ・サイバー犯罪防止講演会（2年）オンラインと対面

5/20 ひたちなか署と連携して、勝田駅元町駐輪場付近の安全パトロールを実施。

その他、本校独自に校外巡回を複数回行った。

#### ⑥施設改修

- ・ 共用部室を創作活動室として使用。
- ・ 課外活動室1（ベンチャーラボ）を整備、使用。
- ・ 国際交流室を課外活動室2として使用。
- ・ 茨友会館の課外活動室をカウンセリングルームとして使用。

#### ⑦預り金

- ・ 4団体が預り金規則に基づき、使用継続。

#### ⑧いじめ対策

- ・ いじめ対策委員会規則に基づき、いじめ対策委員会を開催。
- ・ いじめ相談窓口の設置。
- ・ いじめ防止強化週間内に学生へのアンケート、教職員向け研修（オンライン）を実施。

#### ⑨懲戒処分を伴う学生の問題行動への対応

- ・ 本校学生によるバイクでの無免許運転事案が発生した。規則等に則り適切に対処し、再発防止のため全学生向けに啓発通知をおこなった。

#### ⑩規則改正

- ・ 学生表彰規則改正。
- ・ 学生懲戒規則改正。

### (2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① コロナ禍のため、地域の実情や競技特性に応じ、実施・中止の判断が分かれた。本校においては危機対策本部、学生関係教職員、部活動顧問、保護者及び学生で連携を密にし、コロナ禍における課外活動の在り方を模索してきた。次年度は状況にもよるが、積極的な課外活動推進に向け感染症対策を万全にしていく必要がある。
- ② 教育の機会の平等という観点から、意欲・能力のある学生が経済的な面で心配することなく、安心して学べるよう、経済的に困窮している世帯の教育費負担の軽減を図る奨学金等の積極的利用を呼びかけた。新規に1つの奨学金の利用があった。
- ③ 学生の主体的な取り組みを支援した。学生会費執行に係る助言、学生イベント実現のための手続き支援など、引き続き継続して支援をおこなう。
- ④ 茨香祭をオンライン形式で実施できた。その他のイベントに関してはコロナ禍でも可能

な形態を学生関係教職員、学生で検討していく。

- ⑤ 感染拡大防止を考慮し、オンライン形式をメインで各種セミナーを実施できた。
- ⑥ 課外活動施設整備及び関係規則等の整理をおこなった。学生の課外活動室の使用状況は良好であり、次年度も本体制を継続しておこなう。
- ⑦ 預かり金の取扱いは4団体が継続している。
- ⑧ 8月よりいじめ対策委員会を開催し、制定した規則等に基づきいじめ対策に係る施策を実施した。本年度の取り組みをふまえ、次年度以降は定期的にいじめ対策委員会を実施し、マニュアル等の更新・見直しをおこなう。
- ⑨ バイクでの無免許運転は重大事故につながる極めて危険な行為であることを当該学生に自覚させ、反省を促すため、学生主事・学生主事補・担任で指導をおこなった。
- ⑩ 学生表彰規則は学内表彰をより価値の高いものにするために改正をおこなった。また、従来の表彰方式では表彰されなかった事例でも学生の功績が大きいものに関して推薦、審議のうえ表彰ができる制度（茨優賞）を新設した。  
学生懲戒規則は、弁護士の助言も参考にしつつ、昨今の世情に合わせ、学生委員会申合せ「学生の問題行動に対する指導方針」及び「学生不祥事の対応に関する申合せ」並びに運営会議申合せ「定期試験における不正行為の処分目安の設定と処分方法について」を発展的に解消し制定した。申合せは学生・保護者に非公開であることから、手続きの不明瞭さや事案に対する処分の程度が分からない状況にあったため、これらの課題を改善しつつ、高専機構が定める問題行動等指導ガイドラインにも準拠させた。  
今後は、両規則が適切に運用されるようにしていく。

### (3) 今後の展開

ウィズコロナの社会情勢となったことに伴い課外活動においても令和2年度より実施可能なイベントが増えてきた。学生関係としては感染対策に引き続き留意しつつも、教育の一環として課外活動の一層の促進をはかるべく、必要な対策を講じていく。

## 5. 寮生支援（寮務委員会）

### （1）取組実績

#### ①寮生数について

年度当初寮生数	176人	入居率 84.2% (92.1%)
年度途中入寮者	8人	
年度途中退寮者	6人	
年度末寮生数	178人	入居率 85.2% (93.2%) (卒寮生及び年度末退寮生を含む)

3年生までを基本とした学寮であるが、空室がある場合は、入寮更新を希望する新4・5年生のうち、自宅からの距離、リーダーシップ、素行、成績を鑑みて順位付けを行い、指導寮生（補助）として入寮更新を認めている。

新型コロナウイルス感染症対策のため、二人部屋については一人のみの入居とし、入居率については、それぞれ、従来の定員での入居率（84.2%→85.2%）と二人部屋を一人部屋にした場合の入居率（92.1%→93.2%）を表している。

#### ②二人部屋の解消

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、新友館の二人部屋を一人で使用する事とした。

#### ③寮生保護者向けのメール配信システム（マチコミ）の継続運用

寮生保護者向けの連絡手段とした構築したメール配信システム（マチコミ）を継続運用し、寮生保護者会総会や同臨時総会の開催、保護者への各種照会、意向確認等において活用した。

#### ④寮内設備の充実化

令和4年度から、以下のとおり実施することとした。

- ・寮生保護者会臨時総会での承認を経て、国際寮を除く既存寮にリース契約による乾燥機を導入することとした。
- ・国際寮の新設に合わせて、国際寮へのリースエアコンの導入及び寮内のインターネット環境見直しによるインターネット回線の増強を実施した。

#### ⑤寮食堂について

老朽化している厨房機器類を更新した。

また、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策飛沫防止パネルを各テーブルに設置し、混雑する昼食時間を前半と後半に分ける入替制を実施した。



⑥宿日直業務について

宿日直業務の一部外部委託を継続し、教員の負担軽減を図った。

また、令和3年10月当直分から、教員当直リマインドメールの自動配信を開始した。サイボウズで周知している当直表を CSV ファイル化してアップロードするのみで運用が実現し、これにより、教員の当直忘れがなくなった。

⑦避難訓練について

春に火災、秋に地震を想定した避難訓練を実施した。

⑧寮務委員会

第1回 令和3年4月6日(火)

1. 学生問題行動に関する審議について

第2回 令和3年5月31日(月)

1. 令和2年度寮費決算(案)について
2. 令和3年度寮費予算(案)について
3. 令和3年度学寮運用方針について
4. 国際寮について

第3回 令和3年7月16日(水)

1. 学生問題行動に関する審議について

第4回 令和3年11月24日(水)

1. いじめ調査について
2. 国際寮について(報告)

第5回 令和4年2月24日(木)

1. いじめ調査について
2. 令和4年度学寮運営方針について
3. 茨城工業高等専門学校寄宿舎規則の一部改正について
4. 茨城工業高等専門学校寄宿舎学寮防犯カメラ運用申合せの一部改正について
5. 国際寮について(報告)

第6回 令和4年3月16日(水)

1. 学生問題行動に関する審議について

⑨学寮行事

期日	内容
令和3年4月2日(金)	開寮、新入寮生オリエンテーション
令和3年4月22日(木)	学寮避難訓練(火災)
令和3年4月28日(水)	簡易閉寮
令和3年5月5日(水)	開寮
令和3年5月19日(水)	寮生総会(寮生会予算・決算)
令和3年6月9日(水)	非常時の在寮確認訓練(暴風雨時点呼)
令和3年6月16日(水)	寮生保護者会総会(マチコミメールを使用)
令和3年6月20日(日)	新入寮生歓迎会
令和3年8月10日(火)	閉寮
令和3年9月20日(月)	開寮、1年生部屋替え
令和3年9月25日(土)	学校説明・見学会(学寮説明会)
令和3年9月26日(日)	
令和3年10月13日(水)	寮生保護者会臨時総会(マチコミメールを使用)
令和3年10月20日(水)	学寮避難訓練(地震)
令和3年10月24日(日)	寮祭(クイズ大会、ビンゴ大会)
令和3年12月14日(火)	学寮建物等の美化作業
令和3年12月24日(金)	閉寮
令和4年1月4日(火)	開寮
令和4年2月9日(水)	卒寮生追い出し会
令和4年2月11日(金)	退寮日、部屋替え
令和4年2月21日(月)	閉寮
令和4年3月3日(木)	新1年生の入寮面接

⑩規則等の改正等

- ・「茨城工業高等専門学校寄宿舎規則」の一部改正
- ・「茨城工業高等専門学校寄宿舎学寮防犯カメラ運用申合せ」の一部改正

⑪寮生の体調管理

昨年度の新型コロナウイルス感染症の感染予防対策に関する方針を継続し、以下のとおり実施した。

- ・Google フォームを利用した検温報告を寮生に毎日実施させた。
- ・開寮時は2週間前から平熱が続いていることを条件に入寮を許可した。
- ・寮生が体調不良になった場合は、発熱の目安を37.5度以上とし、風邪に似た症状がある

場合には速やかに保護者に連絡をとって帰宅するよう指導した。

また、新型コロナウイルス感染症罹患が疑われる寮生（主に留学生）の病院搬送業務を委託契約した。

#### ⑫国際寮について

- ・寮生を対象に国際寮の名称募集を実施し、虹友館（こうゆうかん）に決定した。
- ・国際寮新設により定員数が増加することから、既存寮運営の見直しを行い、従来、女子寮としていた北友館を男子寮に変更し、女子寮は国際寮及び紫峰館による運用とした。  
なお、女子寮生からの要望等に配慮し、北友館1階の浴室については女子寮生が利用できるようにし、間仕切り及び防犯カメラを設置することで女子寮生が安心して利用できるよう対策を講じた。

### (2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながらの学寮運営となったが、前年の経験を活かしながら適切に対応することができた。
- ② 一方、従前のように寮生が交流できるような機会を確保するには予断を許さない状況が続いており、いかに寮生間のコミュニケーションを図っていくかは継続した課題である。
- ③ メール配信システム（マチコミ）を導入し、寮生保護者との連絡手段を構築したことはコロナ禍において大変有意義であった。引き続き利用していきたい。

### (3) 今後の展開

国際寮の新設により、寮生数も増え、短期留学生の受け入れも増えることから、寮生が安全で過ごしやすい学寮の環境整備を行う。

## 6. 広報活動（広報室及び広報委員会）

### （1）取組実績

広報活動については、学生、保護者、職員、卒業生及びその他関係機関並びに地域社会に対し本校を正しく認識してもらうことを目的として、広報室及び広報委員会において立案の上、次の活動を行った。

#### ①ホームページの情報発信

ホームページについては、広報活動の最重要な手段と捉えている。

広報室が随時ホームページで紹介する本校の各種行事や学生・教職員の活動について、高専機構本部ホームページの「お知らせ」への掲載申請を行った。

#### ②「学校要覧」の刊行

令和3年度版「学校要覧」を組織、研究活動、学生活動、在学状況、就職・進学状況等のデータを更新し、7月に1,000部刊行した。

主に求人企業、地域連携機関、入試広報及び来客者等に配布し案内を行った。

#### ③「キャンパスガイド」の刊行

令和2年度まで入試広報用として発行していた「What's 茨城高専？」を広報室主導で改修し、「キャンパスガイド2022」として7月に刊行した。改修後の「キャンパスガイド2022」の内容は、「短文」を中心に授業や実験の記載を盛り込み、また、デザイン・構成を統一化した。中学生が本校の学生生活のイメージしやすいような内容へと改修した。

刊行部数は7,500部で、学校説明会等で中学生及び保護者へ、中学校訪問時に中学校教諭に配布し案内を行った。

#### ④令和3年度おもしろ科学セミナーの開催

小学生に理科の楽しさを体験してもらうことを目的として、令和3年度おもしろ科学セミナーを開催した。コロナ禍のため令和2年度は中止となっていたため、2年ぶりの開催となった。

令和3年度は講座数を4つに絞った上で、すべてオンラインで実施した。4講座のうち3講座は「事前郵送キット」と「Zoom」を組み合わせたハイブリッド型の実験工作とした。講座当日に使用する実験材料や工作キットを事前に受講者に送付し、当日の講座ではZoomを用いて担当教員と一緒に実験や工作を進めた。おもしろ科学セミナー当日は延べ88名が受講した。

講座記号	テーマ名	受講者数
A	身近なモノで化学実験	25
B	ふくらむ手袋の謎	14
C	目で見て楽しむプログラミング	31
D	LED を回路で制御	18
	合計人数	88

#### ④「高専だより」の刊行

「高専だより」は、本校の活動内容等を案内することを目的として学生及び保護者向けに、3月に公開した。令和2年度までは紙ベースで印刷して発行していたが、経費削減のため、令和3年度からは本校ホームページ上で公開することとした。

#### ⑤公開講座の開催

学校広報、社会貢献の一環として、中学・高校生、一般市民を対象に次のとおり公開講座を開講した。

新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン実施の講座のみ開講した。「ちょっと変わったプログラミング体験講座」では、ライブ配信で講座を実施した。「もの作り LED 工作入門」では、事前に受講者宛に実験キットを送付し、講座当日に講座動画を視聴しながらキットを製作してもらい、担当教員がメールで質問を受け付けた。

講座の名称	受講定員	受講者数
ちょっと変わったプログラミング体験講座（オンライン）（6月）	30	25
もの作り LED 工作入門（オンライン）	20	23
ちょっと変わったプログラミング体験講座（オンライン）（12月）	30	9
計	80	57

#### ⑥広報委員会

##### 1)第1回

日時：令和3年4月12日（月）

- 議題：
1. 広報室について
  2. 令和3年度年度計画について
  3. 令和3年度おもしろ科学セミナー（案）について
  4. 令和3年度版学校要覧の編集について

5. 令和3年度公開講座について
6. その他

## 2)第2回

日時：令和3年4月26日（月）

- 議題： 1. 令和3年度「おもしろ科学セミナー」開催案について  
2. その他

## 3)第3回

日時：令和3年5月28日（金）

- 議題： 1. 令和3年度おもしろ科学セミナーについて  
2. 令和3年度公開講座について  
3. 「茨城高専キャンパスガイド2022」原稿チェックのお願い  
4. その他

## 4)第4回

日時：令和3年12月7日（火）

- 議題： 1. 令和4年度「おもしろ科学セミナー」について  
2. 令和4年度公開講座の募集について  
3. 『高専だより』の取り扱いについて  
4. その他  
(1) 学内スタジオの設立について  
(2) 『茨城高専2023』の編集について

## (2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 本校教職員や学生の活動について、広報室の方針の下で、引き続きホームページ上で積極的に情報発信を行っていく。
- ② 「学校要覧」については、7月初旬までに刊行することができた。「キャンパスガイド2022」についても広報室主導で掲載内容を改修し、7月までに刊行した。次年度以降も早期に刊行できるよう進めていく。
- ③ 「高専だより」については、令和2年度に計画したとおり、経費削減の観点から紙媒体での発行を取りやめ、ホームページへ掲載するかたちで発行した。
- ④ 「おもしろ科学セミナー」は初のオンライン開催であったが、広報室が立案した方針の下、計画どおり実施できた。セミナーは好評であり、受講者アンケートでは約93%が「おもしろかった」旨の回答であった。
- ⑤ 公開講座については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響から、3講座のみの開設に留まった。開講講座数は少なかったが、各講座は好評であり、受講者アンケートでは約94%が「満足」した旨の回答であった。次年度以降も新型コロナウイルス感染症の影響が続き本校の広報活動を対面で行う機会の減少が予想されるため、オンラインでの

公開講座開催を積極的に検討していく。

### (3) 今後の展開

独立行政法人の予算が年々削減される中で、経済的かつ効果的な広報の方法の検討が必要となってくる。令和3年度から広報室が設立され、今後は広報室立案の方針の下で、広報誌やホームページに加えて、公開講座やおもしろ科学セミナー等のイベントを活用しながら積極的に本校の情報を発信していく。ホームページについては、令和4年度に広報室主導でフルリニューアルを実施する予定である。また、新型コロナウイルス感染症の影響等も考慮し、イベントの実施にあたってはオンラインでの実施も検討していく。

## 7. 学生健康支援（学生健康センター）

### （1）取組実績

コロナ禍における学生の心身の健康維持及び向上を図るとともに、健全な学生生活を送る援助を行うことを目的として、次の活動を行った。

- ① 学生のメンタルヘルスに関する取り組みを実施した。
  - ア. DV 予防教育セミナー（1、2年生）：オンラインセミナー
  - イ. カウンセリング講座（3年生）：オンラインセミナー
  - ウ. 「相談室だより」の発行（HP 掲載）
  - エ. 留学生とカウンセラーによるグループカウンセリング（中止）
- ② 教職員が関連する研修会に参加し支援体制の充実を図った。
  - ア. 発達障害への支援セミナー（学内）を開催（オンライン）
  - イ. 第 18 回全国国立高専学生支援担当教職員研修会へ参加（センター長、看護師 2 名）
  - ウ. 令和 3 年度障害学生支援実務者研修会参加：（オンライン）副センター長
  - エ. 日本学生支援機構「改正障害者差別解消法の施行」：オンライン（センター長）
  - オ. 茨城産業保健総合支援センターセミナー受講：オンライン（看護師）
  - カ. 心の問題と成長支援ワークショップ（JASSO）（オンライン）欠席
  - キ. 第 14 回全国学生相談研修会：（オンライン）欠席
- ③ 運動部所属学生及び寮生を対象に「普通救命講習会」（AED 使用方法）：中止。
- ④ エピペン講習会：中止
- ⑤ 献血を実施した
- ⑥ 学校環境衛生検査（学校飲料水水質検査、学校プール水水質検査、騒音検査、空気検査）を実施した。
- ⑦ 「こころと体の健康調査」（自殺予防のためのチェックリスト）WEB によるアンケートを実施した。
- ⑧ 学生定期健康診断、（歯科検診含む）を実施した。
- ⑨ 「学生総合補償プラン保険」の募集を行った。
- ⑩ 「日本スポーツ振興センター」の給付金請求事務を行った。
- ⑪ 高専体育大会等の救護
- ⑫ 怪我や急病の応急処置、付き添い、健康相談、医療機関紹介・連絡を行った。
- ⑬ 学生相談室のインターカー業務を行った。
- ⑭ 「特別支援教育室」における業務補助を行った。
- ⑮ 学生健康センター内打ち合わせを密に実施した。
- ⑯ 新型コロナウイルス感染症予防対策の継続
  - ア. 来室時の呼び出しインターフォンの利用
  - イ. 体調不良者用の休養室の利用



- ウ. サーモ体温測定機の利用
- エ. 非接触型体温計の利用
- オ. 非接触型自動消毒機の設置
- カ. 体調不良者の対応フローの見直し
- キ. 感染予防パネルの設置
- ⑰ 学生健康センターホームページの更新
- ⑱ 学生相談室の整備。
  - ア. WEB 予約導入
  - イ. 箱庭療法の導入
  - ウ. SSW の人材活用の導入整備
  - エ. SC 勤務時間、体制の見直し
- ⑲ 新入生「健康管理調査書」の有効活用を図る
- ⑳ 救急体制
  - ア. AED の設置
  - イ. 車椅子の増設
  - ウ.

## (2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① コロナ禍 2 年目となり昨年度見送りとしたセミナーをオンラインで実施し、「学生相談室だより」の発行を行い、学校生活をより健全に送れるよう情報発信すると共に学生相談室を身近に感じてもらえるよう努めた。
- ② ア) オンラインによるセミナーを実施し当日参加できなかった教職員もオンデマンド配信の視聴とした。教員からの質疑応答は有意義であった。
  - イ) セミナー参加：(オンライン、対面)
    - 対面形式により現場の抱える問題を共有でき幅広い解決策を見出す事に繋がった。
  - ウ) オンラインセミナー：参加
  - エ) オンラインセミナー：参加
    - 発達障害者、ハラスメント対応について基礎的知識を学ぶ事が出来た
  - オ) オンラインセミナー：欠席
  - カ) オンラインセミナー：欠席
- ③ コロナ禍により中止
- ④ コロナ禍により中止
- ⑤ コロナ禍での献血の重要性を理解し感染対策を講じた上で大勢の協力を得る事が出来た
- ⑥ 学校薬剤師により実施し基準値内であり良好な環境である事を確認した。
- ⑦ WEB 形式によるアンケート調査を実施し調査結果の集計作業を迅速に進め「高判定」の学生の速やかな面談を行った。担任とカウンセラーによる情報共有を図った。発達特性を持つ学生の支援体制についても「特別支援教育室」と連携し早期に情報共有し支援に

繋げた。

- ⑧ 実施方法について、引き続き万全な感染予防対策を講じ歯科検診においてはダブルミラーによる健診を実施した。健康管理を徹底し有意義な学校生活を送れるように今後も受診率の向上に努める。
- ⑨ 安心して部活動に励めるように、加入を推奨した。
- ⑩ 学校管理下内での怪我に対して情報提供を行い請求漏れが無い様に対応した。
- ⑪ 感染予防対策を万全に行い救護活動を行った
- ⑫ コロナ禍における不意に起こる応急処置や急病に対し感染対策を強化し対処した。関係者間の連絡適切に行った。
- ⑬ メンタルの問題を抱え、体調不良の訴えにより休養する学生に対して、丁寧に対応する事を心掛けゲートキーパーとしての役割を果たせるよう努めた。  
センター長を中心にカウンセラー、教員、センター内スタッフにより適時適切な情報共有を行い対応した。
- ⑭ 「特別支援教育室」の体制整備について、特に見える化に努め適切な情報提供が出来るよう新たなファイリングを作成した。教務係との連携に努めカウンセラーを中心に業務補助を行った。
- ⑮ 合理的でより良い支援を行うために、定期的な打ち合わせ以外に随時必要な際には初動が遅れぬよう速やかに課題の解決に取り組んだ。
- ⑯ 引き続き新型コロナ感染症予防対策の取り組み強化を図った。
- ⑰ 学生健康センターを気軽に利用出来るよう必要な情報を簡潔明瞭に掲載する等随時HPの更新を行った。
- ⑱ コロナ禍においてこそ速やかな相談室利用ができるよう相談日時を増加しSSWの導入計画を推し進め体制強化を図った
- ⑲ 「健康管理調査書」の情報共有を行い入学後の速やかな対応に繋げた。
- ⑳ 車椅子設置、AED設置における救急体制の充実の継続

### (3) 今後の展開

学生健康センターとして、感染症予防対策の徹底に努め学生が不安なく、充実した学生生活を送れるよう、また、新型コロナ感染症対策に伴う学校生活の環境の変化に、順応出来るよう引き続き支援に努める。コロナ禍の影響にも関連しメンタル不調を抱える学生に早期に気づき適切な対応を行える体制づくりの強化は急務と考えられる。

相談室の各部屋の使用方法を詳細に見直しを深め改装を進める事となった。

SSW導入やSCの相談室開室日を増やす等より一層メンタルヘルス対策強化を図るための整備を行う事を推し進めたい。また、引き続き関係教職員、外部機関との連携を密に行い速やかな情報共有を行えるよう努める。

## 8. 図書館運営（学術総合情報センター）

### （1）取組実績

本校図書館は和書・洋書あわせて約8万9千冊の蔵書があり開架式となっている。コンピュータを用いた図書データベース・電子ジャーナルの検索も充実しており、学生・教職員の学習や調査研究の支援を行っている。

理工系専門図書のほか、文学・哲学などの書籍も多数所蔵している。加えて、平成24年度からは電子書籍を導入し、新しいサービスの提供を開始しコレクションを拡大している。

また、開館時間の延長・土曜日開館を実施することにより利用の拡大を図っている。開かれた図書館として地域市民に閲覧・貸出を行い、地域への貢献を推進している。

#### ① 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を実施した図書館開館

■ 日本図書館協会の「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」や他高専図書館、大学図書館、近隣公共図書館の開館状況を参考に本校図書館における対策を実施して図書館を開館した。

- 令和2年4月1日から引き続き一般利用者開放の休止（ホームページで案内）
- 短縮開館の実施（時間 8:30～17:00、休館 土・日・国民の休日）
- 閲覧室学習機の座席間隔を空け、座席を半数にして利用を再開
- 後期登校開始日（遠隔授業実施）にあわせた貸出中図書の返却日の延長
- 貸出資料返却時のブックポスト（玄関前に有り）利用の推進
- 図書館サービスカウンターの飛沫防止対策の設置
- 入館の際は、マスクを着用、入口でのアルコール消毒の徹底
- 利用者把握のため図書館入口で図書館利用簿に記入
- ソーシャルディスタンスの確保、滞在時間の制限

#### ② 図書館棟耐震改修工事に伴う図書館の臨時休館

■ 令和3年8月11日から令和3年9月30日

➢ 利用サービス：予約による図書貸出

＊貸出方法：貸出希望図書をEメールで予約の上、図書館窓口で貸出受取り

＊留学生用の図書館利用ガイドを作成して配付（夏休み中の在寮留学生への配慮）

#### ③ 行事实施

##### 1) 図書館ガイダンスの実施

（新入生対象、新入留学生対象に例年4月に実施）

＊新入生、2年生対象（クラス単位で二班に分かれて実施）

日時：令和3年8月3日（火）、4日（水）、5日（木）、10日（火） 国語の授業時間

場 所：視聴覚教室、図書館閲覧室

\*新入留学生対象

留学生向け図書館利用ガイドを作成して配布した。

2) ブックハンティングの実施（学生図書委員会）

期 間：令和3年6月15日（火）～令和3年7月9日（金）

クラスごとに希望図書を募り、リストを図書館へ提出。

合計89冊の図書を購入した。（経費：後援会費）

3) 第21回図書館カフェの開催

（図書館では、知的情報の拠点を目指すことを活動計画の一つとして挙げており、例年秋季に本校教員の研究に関連したテーマで講演会を開催）

⇒ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止した。

4) 第5回ビブリオバトルの開催

（例年秋季に文章やイラストで推薦本を紹介する本校独自の書評合戦を開催）

募集期間：令和3年9月21日（火）～10月29日（金）

応募総数：7件

投票期間：令和3年11月4日（木）～11月30日（火）

受賞者決定：令和3年12月7日（火）

表彰式：令和3年12月16日（木）12時40分～（場 所：視聴覚教室）

賞	所属	氏名	書名	作者	おすすめポイント
特別大賞	4C	北 佳	あやうく一生懸命生きるころだった	ハ・ワン	作者の心に響く言葉たち
	3C	平塚 名	江戸のまんが	清水 勲	ユーモラスで表情豊かなイラスト
特別優秀賞	4M2	足立 克木	掟上今日子の退職願	西尾 維新	トリックが単純なこと
	5I	大壺 柚葵	歯は臓器だった	村津 和正	「歯は臓器」という驚きの真実
優秀賞	5I	佐藤 季紀	Leonardo de Vinci	Herbie Brennan	多読コーナー（上3段）の中でおそらく一番おもしろい
	5I	安 圭太	楽しく学ぶUnity2D超入門講座	森 功尚	機能ごとに学べる点
	4I	諸川 颯	祈る神の名を知らず、願う心の形も見えず、それでも月は夜空に昇る。	品森 晶	魅力的で個性的なキャラクターたち

#### ④企画展示の実施

- 1) 「ブックハンティング図書」の展示（経費：後援会費）  
展示物：学生からのリクエスト図書
- 2) 「教員推薦図書」の展示（経費：後援会費）  
展示物：先生方より推薦された専門図書・参考書等
- 3) 各賞受賞作品の展示  
展示物：2022年本屋大賞受賞作品、第165回・166回芥川賞・直木賞作品
- 4) 「第5回ビブリオバトル入賞作品図書」の展示  
展示物：第5回ビブリオバトル受賞作品  
展示期間：令和3年12月10日（金）～

#### ⑤図書館環境整備

- 1) 座席の削減  
新型コロナウイルス感染症予防のため、座席を間引いて利用者同士の距離を保つよう工夫した。
- 2) 入口モニターの活用  
新型コロナウイルス感染症予防中の図書館利用の方法や図書館行事、新着図書のお知らせなどこまめに更新し、ホームページと併せて利用者の図書館活用に役立てた。
- 3) パソコンコーナーの印刷用紙の自由利用  
これまで、パソコン利用時の印刷用紙は学生が各自持参することになっていたが、後援会からの寄贈を受け、学生が自由に使用できるようにした。

#### ⑥各種図書コーナーの配置

- 1) 新着図書コーナー  
毎月の継続図書や新着図書を配架。今年度は、学生のリクエスト図書（46冊）や専門書の購入を積極的に行う。
- 2) 英語試験コーナー  
TOEIC、技術英検のテキストや英検、TOEFL、IELTS、GTECの参考書を展示。英語の論文作成やプレゼンテーションに役立つ図書を展示。
- 3) 新書コーナー  
岩波ジュニア、岩波、ブルーバックス吉川弘文館の歴史ライブラリー他、文庫シリーズ多数有り。
- 4) シラバスコーナー  
その年のシラバスに合わせて毎年見直しを行い、テキストを整備し学年別に配架。

- 5) 大学編入学対策コーナー
- 6) 進路資格コーナー  
資格取得や就職活動に役立つ資料を配架。  
資格取得参考書、試験問題過去問集を充実させた。
- 7) F E 受験コーナー  
F E 試験 (Fundamentals of Engineering Exam) 対策の参考書・問題集を配架
- 8) 本校教員著書コーナー
- 9) メンタルヘルスコーナー
- 10) 文芸部「地雷」コーナー  
文芸部誌『地雷』を配架し、活動を応援。
- 11) 留学生コーナー  
留学生におすすめの図書を配架。タイ留学生を対象にした英語、タイ語の書籍を整備。
- 12) グローバルコーナー  
グローバル関連の図書、国連関連図書に加え、国際連合広報センター発行の広報誌『Dateline UN』国際協力機構広報誌『mundi』を置き、タイムリーな国際情勢を紹介。

#### ⑦令和3年度整備資料

- 1) ブックハンティング図書 89 冊 (後援会より寄贈)  
学生図書委員が中心となりクラスごとに選書リストを提出、夏季休業前に購入した。自分たちで選んだ本ということで利用率が高い。
- 2) 教員推薦図書 106 冊 (後援会より寄贈)  
教員から推薦された、学習、レポートに役立つ専門書・参考書、その他お勧めの図書などを購入した。
- 3) シラバス図書 39 冊 (後援会より寄贈)  
今年度のシラバスに掲載の図書を購入し、学年ごとに配架した。
- 4) 留学生用図書 132 冊 (予算：日本型高専教育制度の海外展開に向けた体制整備)  
昨年購入の 237 冊とゼミ室での日本語教育や多読活動、留学生との交流に利用。
- 5) 専門書 301 冊 (後援会より寄贈)  
新出題形式対応 TOEIC 等、資格取得図書を多数購入、年度が古く利用されない図書との入れ替えを行う。  
専門書は新着展示として入口直ぐのカウンター前書架に配架し、貸出利用された。
- 6) 各賞受賞作品 27 冊 (後援会より寄贈)  
芥川賞・直木賞、本屋大賞受賞作品を購入、展示コーナーを作成した。
- 7) 教員著書 4 冊 (うち後援会より寄贈 1 冊)  
茨城高専の教員の著書コーナーへ展示した。
- 8) DVD 映像資料 30 点 (後援会より寄贈)

将来技術者を目指す高専生向けに『プロジェクトX』『プロフェッショナル仕事の流儀』のシリーズを館内利用資料で購入した。

⑧蔵書構成等（令和3年度）

1) 図書

分類	和書	洋書	計
総記	3,479	256	3,735
哲学・宗教	3,939	899	4,838
歴史・地理	6,234	235	6,469
社会科学	6,254	299	6,553
自然科学	14,454	2,633	17,087
技術工学	13,949	1,732	15,681
産業	739	17	756
芸術	4,214	105	4,319
言語	5,527	3,141	8,668
文学	17,817	1,442	19,259
計	76,606	10,759	87,365

2) 電子書籍

和書	洋書	計
46	133	179

3) 雑誌

和雑誌	洋雑誌	計
285	127	412

4) 定期購読

- ・国内雑誌：43誌（うち後援会寄贈雑誌21誌は、図書館閉館のため5月号～購読休止）
- ・新聞：5誌（茨城新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞、日刊工業新聞）

⑨研究支援活動

1) I L L利用状況

- ・外部図書館からの貸借受付：28件
- ・外部図書館への貸借依頼：43件
- ・I L Lシステム以外の公立図書館との相互貸借：3件

2) 電子ジャーナル利用

電子ジャーナル名	契約形態
Science Direct (Elsevier 社)	高専コンソーシアム

A I P Publishing (American Institute of Physics)	高専コンソーシアム
A P S Physical Review Journals (American Physical Society)	高専コンソーシアム
ScienceOnline (America Association for the Advancement of Science)	高専コンソーシアム
Springer Link (Springer・Nature 社) 高専向けパッケージ	本校個別契約

### 3) 文献検索データベース利用

データベース名	契約形態
JDreamIII (科学技術振興機構)	高専コンソーシアム
MathSciNet (AMS : American Mathematical Society)	高専コンソーシアム
朝日けんさくくん (朝日新聞データベース)	本校個別契約

### ⑩ 図書館開館状況、入館者数、貸出冊数 (令和3年度)

\* 正規の時間内開館： 平日の午前8時30分～午後5時

\* 時間外開館 夜間開館： 平日の午後5時～7時 (1月11日～2月1日臨時実施)

\* 時間外開館 土・日曜開館： 午前10時～午後5時 (1月臨時開館)

#### 1) 開館状況(月別開館日数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
正規時間	9	18	22	21	20	19	20	20	19	18	17	22	225
時間外(夜間)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	15
時間外(土曜日)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3
時間外(祝・日曜日)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
合計(正規+土・日)	9	18	22	21	20	19	20	20	19	22	17	22	229

\* 1月臨時時間外開館実施

#### 2) 入館者数(入館者カウント装置から算出)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
正規時間	781	3,248	3,021	3,710	2,350	920	
時間外(夜間)	0	0	0	0	0	0	
時間外(土曜日)	0	0	0	0	0	0	
時間外(祝・日曜日)	0	0	0	0	0	0	
合計	781	3,248	3,021	3,710	2,350	920	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
正規時間	2,820	3,650	2,710	3,796	2,109	1,509	30,624



時間外(夜間)	0	0	0	0	0	0	0
時間外(土曜日)	0	0	0	247	0	0	247
時間外(祝・日曜日)	0	0	0	103	0	0	103
合 計	2,820	3,650	2,710	4,146	2,109	1,509	30,974

\*入館者カウント装置から算出 (1/11～2/1の臨時夜間開館入館者数は正規時間に含む)

### 3)一般利用者入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

\*新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和3年度は一般開放を休止した。

### 4)利用者区別貸出冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1年生	10	32	27	11	33	1	12	9	8	7	8	9	167
2年生	21	54	75	26	123	2	46	43	59	25	50	15	539
3年生	37	31	65	23	62	2	59	61	76	33	75	35	559
4年生	49	73	119	108	145	0	137	85	180	106	208	48	1,258
5年生	40	116	59	53	61	12	53	52	66	54	33	10	609
専攻科	59	93	45	41	41	12	44	46	60	14	51	16	522
教員	14	16	32	15	26	11	27	23	42	21	38	31	296
職員	7	48	56	69	18	4	129	91	63	141	74	47	747
非常勤講師	2	15	10	4	8	1	0	5	17	2	14	8	86
一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	239	478	488	350	517	45	507	415	571	403	551	219	4,783

### ⑪会議等の開催

#### 1) 第21回関東信越地区高等専門学校図書館協議会 (オンライン Zoom により開催)

開催当番校：群馬工業高等専門学校

日時：令和3年6月28日(金) 11:00～

場所：中会議室

出席者：関口 直俊 (学術総合情報センター長)、木村 保 (学生課図書・情報係長)、  
関 幸子 (図書館司書)

2) 令和3年度高等専門学校及び技術科学大学図書館情報交流集会

新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、また、感染拡大防止の観点から開催中止。

**(2) 自己評価（改善含む）及び課題**

- ① 新型コロナウイルス感染防止対策を実施し、閲覧室学習機の座席間隔を空け、座席を半数にして図書館開館を再開した。一般利用者への開放は継続停止した。
- ② 令和3年度図書館棟耐震改修工事に伴う臨時休館中においても、研究支援活動や図書の予約貸出しサービス等を実施するなど、図書館の利用環境を保持できるよう取り組んだ。
- ③ 令和4年1月には、学生からの要望に応じて、委託業務変更契約により19時までの時間外開館、土曜日開館、期末試験期間中の日曜開館を実施した。
- ④ ブックハンティングや企画展示を実施し、また、各種コーナーの図書を充実させ、更に利用者が増えるよう、図書館利用者の興味をひく取組を推進していく。
- ⑤ 電子ジャーナルの利用料金が年々値上げされていくなか、年々削減される図書館運営経費から必要経費を捻出し、図書館活動の向上と教育・研究情報サービス機能の強化・推進を図る。
- ⑥ 本校ホームページの図書館WEBサイト活用による情報発信や図書館利用サービスを提供するため、サイト内の情報を整理して充実させる。
- ⑦ 図書館管理業務を外部委託契約により実施しているが、今後も継続して実施していく。

**(3) 今後の展開**

- ① 平成30年4月20日、第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」が閣議決定され、高校生の読書関心度合いの低下、スマートフォンの普及等による読書環境への影響などの現状から、読書習慣の形成に向けての取組、読書への関心を高める取組、自学自習の環境整備などについて検討していく。
- ② 図書館における新型コロナウイルス感染防止対策を継続して実施し、図書館利用者の感染予防に努める。
- ③ 令和3年度から1年延期となった、第4期統合図書館システムへの更新が令和4年度に高専機構本部の調達（長岡技術科学大学との共同調達）により実施される。

## 9. 情報化推進（学術総合情報センター・情報セキュリティ管理委員会）

### （1）取組実績

情報センター等では、ICT 授業や業務を円滑に行えるような環境整備、PC 等の利用におけるサポート及び情報セキュリティ強化等について、次の活動を行った。

#### ①多要素・多段階認証の導入

情報システムサービス Microsoft 365 について、昨年度に全教職員へ多要素・多段階認証を導入したのに続き、今年度の6月に全学生へ多要素・多段階認証を導入した。

また、情報システムサービス Google について、全教職員へ多要素・多段階認証を導入した。

#### ②ソフトウェアライセンス管理

ソフトウェアのライセンス管理を徹底する事を目的として、全教職員に保有しているソフトウェアの調査を実施し、ソフトウェアライセンス管理台帳を作成した。

#### ③メール誤送信防止システムの導入

インシデント防止対策として、高専機構本部で契約したメール誤送信防止システムを導入するように全教職員へ周知徹底を図った。

#### ④情報セキュリティ教育・訓練

情報セキュリティに対する意識の向上を目的として、全学生及び全教職員対象とした、情報セキュリティ教育を e-Learning で実施し、併せて、誓約書の提出を実施した。

また、教職員対象に、標的型メールの対応訓練を実施した。

### （2）自己評価（改善含む）及び課題

- ① 情報システムサービスへの多要素・多段階認証の導入及びメール誤送信防止システムの導入により、情報セキュリティの強化を図ることが出来た。
- ② ソフトウェアライセンス管理台帳を作成し、ライセンス管理の徹底を図ることができた。
- ③ 全教職員及び全学生へ情報セキュリティの誓約書の提出と e-Learning を実施したことにより、情報セキュリティへの意識付け及び注意喚起を図ることが出来た。

### （3）今後の展開

情報セキュリティへの対策は、年々厳しくなっていることから、有線 LAN への MAC 認証の導入及び情報システムサービス Google の全利用者への多要素・多段階認証の導入を計画し順次導入を図っていく。

## 10. 国際化推進（グローバル教育センター）

### （1）取組実績

国際化推進については、グローバル教育センター会議で立案し、筑波大学連携事業、留学生受入及びグローバルエンジニア育成事業などの取り組みについて、各所掌において着実に実行に移した。新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大が続いたため、今年度は海外学生派遣・受入や海外大学への視察等は実施を見送った。

#### ① 筑波大学連携事業 Global PBL

令和3年8月25日（水）から8月31日（火）の5日間（土日を除く）、筑波大学大学院の外国人留学生をティーチングアシスタントに夏季集中講義：Global PBLをオンラインで実施した。今年度のテーマは“Carbon Neutrality by 2050: The World’s Most Urgent Mission”で、24人の学生（4年生20人、5年生4人）が受講した。

#### ② 留学生（正課生）の受入

本科1年次に男子1名、女子1名（タイ）、本科3年次に男子4名、女子1名（マレーシア、ラオス、カンボジア、モンゴル）の計5名の留学生を新たに受け入れた。新型コロナウイルス感染症の影響で、4月に受け入れが出来たのは2名で、全員の受入が完了したのは10月だった。受入までの期間、留学生に対して遠隔授業を行った。

#### ③ タイ留学生受入

令和3年度も本科1年次にタイ留学生を2名（4期生）受け入れた。令和3年5月27日に来日後、2週間の待機期間を経て令和3年6月11日に本校へ到着した（参考：令和2年度は10月22日に来日後、2週間の待機期間を経て11月6日に本校へ到着した）。来日するまでの授業は、日本語は基本的にすべてオンラインでの直接授業、物理、化学、情報リテラシー及びホームルームはライブ配信と課題、国際創造工学基礎は録画配信、一部ライブ配信及び課題、基礎数学Ⅰ・Ⅱ、Global Life Science、Global Awareness、体育は録画配信と課題、Oral Communicationは課題、補講は毎日授業のあとにGoogle Meetでフォローした。令和3年度末におけるタイ留学生在籍者は8名（本科1年：2名、本科2年：2名、本科3年：2名、本科4年：2名）であり、6期生（2023年度（令和5年度）入学）まで受入を予定している。

#### ④ 本校留学生の活動支援

留学生の健康管理のため成人病検診（血液検査）、インフルエンザ予防接種、麻疹抗体検査を実施した。麻疹抗体検査の結果、抗体値の低い留学生に対しては予防接種を促した。

⑤ひたちなか市国際交流協会との連携

米倉達広校長がひたちなか市国際交流協会の副会長を務めた。池田グローバル教育センター長および内山専門共通教育部教員が理事会へ出席し、地域と本校との国際分野での連携を深めた。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、多文化交流グループ主催の「留学生と話そう!」「こくさいちゃんカフェ」等のオンラインイベントへ、本校留学生が参加した。

また、例年、ひたちなか市国際交流ボランティアバンクを通じて本校留学生のホストファミリーを依頼しているが、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、委嘱は見合わせた。

⑥トビタテ留学 JAPAN

本科3年生1名がトビタテ留学 JAPAN 高校生コース（7期生）オンライン研修を受講した。

⑦グローバルエンジニア育成事業

令和3年度も「持続可能なグローバル社会をけん引する人材育成」事業が、高専機構本部のグローバルエンジニア育成事業として採択された。この事業は、持続可能なグローバル社会をけん引する人材として、英語でのコミュニケーションスキルに加えて、認知能力、社会性、課題発見・解決能力を備えた学生の育成を目指すもの。

令和3年度事業の取組概要は以下のとおり。

番号	実施項目	概要
1.1	グローバル授業の実施	1年2科目、2・3・4年でグローバル副専攻科目を実施し、ソフトスキルの涵養を行った。
1.2	ソフトスキル関連科目の全額展開案の策定	4年次で全学対象共通科目のGlobal PBLを実施した。
2.1	キャリア教育の実施	キャリア支援の教員を一名雇用し、キャリア関係の教育の整備を始めた。
2.2	キャリア教育の設計	次年度よりキャリア支援室を設けて、統一的なキャリア教育体制を整備した。
3.1	起業家教育の実施	2年次にGlobal Science において議論の方法と情報収集を学習した。4年次にはProject Management において起業に必要な方法論をケースベースで学習し、Applied Science において具体的なプロジェクトの実施を行った。
3.2	課題解決に関するコンペ出場	茨城県ビジネスプランコンテストに8件応募し、1件が受賞した。課外でアフリカの課題解決コンテストに参加し、本採用された。

4.1	オンライン国際コンペへの出場	2年生の Global Science において国際大会に通じる国内のコンペへ提出するためのプロトタイプ作成を行った。
5	派遣・受入	オンラインで学生受け入れを1件（仏・INSA Rouen）、オンラインでの協業を2件（タイ・PCSH s、メキシコ・グアナファト大学）行った。

#### ⑧グローバル教育センター会議

##### 1) 第1回

開催日：令和3年4月28日（水）

- 議 題：1. グローバル教育センター規則・構成員について  
 2. 令和3年度の業務分担について  
 3. 茨城工業高等専門学校外国人留学生規則の一部改正について  
 4. 国際交流クラブの廃止および部活動化について  
 5. グローバルエンジニア育成事業に係る令和2年度事業報告書及び令和3年度事業計画書等の提出について  
 6. 令和3年度グローバル教育センター予算について  
 7. タイ政府奨学金留学生事業令和2年度取組実績および令和3年度事業計画書等の提出について  
 8. INSA Rouen 学生のオンライン研修受入について  
 9. その他

## (2) 自己評価（改善含む）および課題

### ①筑波大学連携事業 Global PBL

昨年度からグローバル副専攻の学生の必修科目となったため、昨年度並みの受講者数だった。コロナ禍ではあったが、オンラインで開講することができた。

### ②留学生（正課生）の受入

留学生（正課生）の受入れ時には、住民登録や国民健康保険加入、口座開設、携帯電話購入など各種手続きの支援が必要となってくるが、本科1年生の場合は、年齢が低いことと日本語能力が不十分であることから受け入れ時には更にきめ細やかな支援が必要である。

### ④ タイ留学生受入

タイ留学生の受入は、令和3年度現在6期生（2023年度入学）までの予定である。1期生から4期生までに実施した学習・生活支援に係るノウハウや情報を集め、受入れている学生及び今後受け入れる学生に対して、より良いサポートが図れるように関係者と情報を

共有する。

④本校留学生の活動支援

留学生の麻疹予防接種については、出身国によって制度や健康管理に対する意識に温度差があるため、必要性について理解してもらうことが困難であるが、学生寮で健康に集団生活を送るためにも引き続き推奨していく。

⑤ひたちなか市国際交流協会との連携

次年度以降も連携を続け、更なる関係の強化を図っていく。

⑥トビタテ留学 JAPAN

次年度以降も適切に学生へ情報提供を行い、支援していく。

⑦グローバルエンジニア育成事業

令和3年度は、実際のプロトタイプを作成する時間として夏休みを想定していたが、新型コロナウイルス感染症防止ため学内立ち入り制限があったために、学内での課題実施ができなかった。また、オンラインでの協働作業をいくつか行ったが、学生間のスケジュール調整・自律的な協働作業が難しいことが課題として残った。

次年度も事業の継続を機構本部へ申請し、事業目的達成のために計画を遂行していく。

(3) 今後の展開

新型コロナウイルス感染症流行の完全な収束の見通しが立たないことから、令和3年度も学生の海外派遣や受入の実施を見送ることとなった。年間の留学生行事も例年から大幅な変更を余儀なくされ、歓迎会等の行事は中止となった。

一方で、ICTを活用したオンラインでの交流を積極的に検討し、グローバルエンジニア育成事業の取組において、学生の受入・協業を行った。次年度も、学生の英語研修や海外派遣の代替として、オンラインでの取組を検討していく。ICTを活用した取組では、従来、経済的な理由や長期間の不在が困難である等の理由で海外研修や海外留学への参加をためらっていた学生にも国際交流の機会を提供できるだけでなく、奨学金や事業予算等に頼らない持続可能な国際交流スタイルの構築につなげていくことも期待できる。

## 1 1. 男女共同参画推進（男女共同参画推進センター）

### （1）取組実績

教育活動全般を通じた男女共同参画の推進、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を図るための環境整備、男女共同参画の意識啓発などを目的とし、男女共同参画推進センター運営委員会で立案の上、次の活動を行った。

#### ①本校ホームページの女子中学生向けページリニューアル

例年作成していた女子学生や女性教員に焦点を当てたパンフレットやポスターの作成を中止し、それに代わるものとして、本校ホームページの女子中学生向けページの更新を行った。新規に在校生アンケートや卒業生インタビューのページを作成して、女子中学生に向けた広報を充実させた。

#### ②盗聴器等調査の実施

男女共同参画推進センター運営委員会委員と女性教職員の協力のもと、校内男子トイレ、女子トイレ、男子更衣室及び女子更衣室の盗聴器等の有無を目視にて調査し、盗聴器等の不審物が無いことを確認した。

#### ③第二学年対象ジェンダー講演会の実施

LGBT やジェンダーに関する考え方について見識を深めることを目的として、次のとおり講演会を開催した。

- ・ 開催日：令和4年1月11日（火）
- ・ 対象者：第2学年学生
- ・ 講師：LGBTQ 支援団体 RainbowCreate 代表 定政 輝氏

#### ④設備整備の実施

男女共同参画推進センター運営委員会において、施設・設備に関して女性用に制限せず問題点の情報収集を行った。10号館男子トイレで、外から鏡を通して便器が見えてしまう問題に対して、改善策を検討し、鏡の一部にシートを貼ることで対応した。

#### ⑤男女共同参画推進センター運営委員会

##### 1) 第1回

開催日：令和3年11月11日（木）

- 議題：1. センターの役割について  
2. 令和2年度活動実績報告について  
3. 令和3年度年度計画について  
4. 令和3年度活動内容について



- 5. 広報誌の発行について
- 6. HPの更新について
- 7. その他

## (2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 本校ホームページの女子中学生向けページについて、新規に在校生アンケートや卒業生インタビューのページを作成して、女子中学生に向けた広報を充実させた。次年度は学生アンケートを実施し、その結果からジェンダーバイアス解消につながるアプローチを検討し、女子学生の確保に自然とつながる広報活動の展開を図る。
- ② 盗聴器等調査の実施について、女子トイレ、女子更衣室に加えて、男子トイレ、男子更衣室も調査の対象とした。全教職員の不安解消、不審者及び不審物設置防止を目的とし、次年度も引き続き調査を行う。
- ③ 男女共同参画推進センター主催の講演会について、学生の意識向上がみられた。次年度も引き続き開催を開催する。
- ④ 設備整備について、男女共同参画推進センター運営委員会で整備が必要な設備の情報を収集し、整備を実施したことにより、男子トイレの環境を向上することができた。次年度も引き続き、男女問わず施設整備の調査を行い、校内環境向上を図る。

## (3) 今後の展開

ジェンダー及びLGBTに関しては重要な課題として捉えており、講演会等を実施して学生及び教職員の見識の向上を図っているが、今後は社会の動向を注視しながら、より一層の見識の向上及び施設の整備を図っていく。

## 1 2. 地域連携・研究活動（副校長（地域連携・評価）、地域共同テクノセンター）

### （1）取組実績

地域連携・研究活動については、研究活動の活性化と、社会・地域との交流を促進するシステムづくりに努め、茨城高専から情報を発信し、教育研究上の成果を社会・地域に積極的に還元する取組を行い社会貢献することを目的として、副校長（地域連携・評価）並びに地域共同テクノセンターにおいて立案し、次の活動を行った。

#### 【副校長（地域連携・評価）】

##### ①キャリア教育関係

###### 1) キャリアデザイン講座の実施

本科3年生を対象に、地元企業の技術者を講師として招いて行う、「キャリアデザイン・基礎講座」及び本科1年生を対象に、本校専攻科生を講師として行う「キャリアデザイン・スタートアップ講座」については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止した。本科4年生、専攻科1年生を対象に、自己分析シート、エントリーシートの添削指導及び模擬面接指導を行う「キャリアデザイン実践講座」については、茨城工業高等専門学校同窓会の協力のもとオンラインで行われ、メンター（講師）12名を選出いただき、9人が受講した。

##### ②茨城高専地域協働サポートセンター（以下「サポートセンター」と記載）関係

###### 1) 茨城高専活動支援

教育研究助成のため（ICT教育の活動支援を目的）として、300,000円の寄付金を受領した。

###### 2) 卒業生の就職相談関係

令和3年度は茨城高専HPに掲載している卒業生就職相談窓口を通しての就職相談はなかった。就職相談依頼からの流れは、

- （1）本校HPの卒業生就職相談窓口を見て本校へ申込
- （2）神野河助教と相談依頼者とのヒアリング日程調整
- （3）ヒアリングの実施（都合が合えば相談依頼者の担任や卒業研究担当教員も同席）
- （4）相談依頼者の就職に対する思いを考慮した上で該当する企業をアドバイス。

##### ③茨城高専ギャラリー2022

###### 1) MIPPE（地域相互誘起型課題解決実践教育プログラム）企業PR動画審査会の実施

3月に、専攻科生が対象となる企業を取材し、半年間協議を重ねながら制作した動画コンテンツを展示披露するとともに、有識者による審査会を開催し、優秀なコンテンツを表彰した。

【地域共同テクノセンター】

①茨城高専知財委員会による審査

発明等届審査：1件、譲渡審議：2件、権利放棄審議：6件を実施した。詳細は下記のとおり。

区分	名称	担当教員	審査結果
発明等届	電力供給装置及び電力供給方法	E系 長洲教授	承認
譲渡	電力供給装置及び電力供給方法並びに当該電力供給装置を用いる鉄道車両用監視システム ※共同発明者の企業への譲渡	E系 長洲教授	承認
権利放棄	生体高分子の結晶化装置、生体高分子の結晶化溶液セル、生体高分子の配向制御方法、生体高分子の結晶化方法、及び生体高分子の結晶 ※高専機構単独	E系 若松教授	承認
権利放棄	タンパク質結晶化分析装置及びタンパク質結晶化分析方法 ※高専機構単独	E系 若松教授	承認
権利放棄	結晶化促進方法、結晶化解析方法、結晶の製造方法、結晶化装置の制御プログラム、記録媒体、及び結晶化装置 ※高専機構単独	E系 若松教授	承認
権利放棄	洋上移動体の姿勢制御システム並びに該姿勢制御システムを有するブイ ※企業との共同出願した権利	M系 岡本教授	承認
権利放棄	非接触型交流電圧測定装置 ※企業との共同出願した権利	E系 皆藤 准教授	承認
譲渡	電力供給装置および電力供給方法 ※共同発明者の企業への譲渡	E系 長洲教授	承認
権利放棄	ガス切断機及びガス切断方法 ※企業との共同出願した権利	M系 飛田教授	承認

②研究成果の外部公表

1)学内からの発信

研究彙報（第57号）（I系 兒玉特命教授、I系 滝沢教授、L部 加藤(彬)助教、M系 平澤准教授、G部 神野河助教）を作成し、茨城高専ホームページに掲載して外部へ公表す

る。また、茨城高専シーズ集を改訂し、PDF版を茨城高専ホームページに掲載している。  
 ※茨城高専 HP 掲載場所 HOME/施設センター紹介/茨城高専地域共同テクノセンター

### ③校長裁量経費の活用

研究推進経費として 999,000 円を G 部 二田特命助教、M 系 柏助教、技術 山縣専門職員の 3 名に配分した。

論文投稿支援事業として 289,868 円を L 部 大津准教授、L 部 伊東講師、L 部 伊藤講師、E 系 服部助教、C 系 小松崎教授の 5 名に支援した。

科研費採択支援事業として 720,000 円を M 系 柏助教、E 系 若松教授、E 系 澤畠准教授、E 系 服部助教、C 系 小松崎教授、技術 山縣専門職員の 6 名に支援した。

### ④ひたちなか市との包括連携協定関係

#### 1) なかネットワークシステム(NNS) 関係

7月 9日：通常総会（書面開催）

11月 20日：コーディネーター養成講座修了式へ米倉校長出席

NNS 新年賀詞交歓会、NNS ひらめきサロン、公開講座は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止。

#### 2) 市民大学の開講

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止。

#### 3) 青少年のための科学の祭典ひたちなか大会

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止。

#### 4) 学童クラブ育成支援充実事業

学童クラブ育成支援充実事業として、ひたちなか市と委託契約を締結。放課後に学校の理科室を利用し、茨城高専の教員（L 部 久保木准教授を中心に、L 部 原教授、M 系 小野寺准教授、M 系 村上准教授、E 系 服部助教、C 系 小林准教授）と学生（述べ人数）51 名が講師となって、長堀小学校 2 年～6 年生の児童（延べ人数）187 名を対象に理科の実験を中心とした体験活動を行い、児童たちの学習に対する意欲・関心を高める活動を下記の日程で行った。

回	開催月	内 容
1	7 月	色で遊ぼう
2	8 月	音で遊ぼう（動画配信形式での実施）
3	8 月	空気砲で遊ぼう（動画配信形式での実施）
4	9 月	オレンジの皮で遊ぼう（動画配信形式での実施）
5	10 月	形で遊ぼう
6	11 月	磁石で遊ぼう
7	12 月	星を見よう（雨天によりパソコン室にて実施）

#### 5) 環境シンポジウム 2022

4月25日に、ひたちなか市が主催による「環境シンポジウム 2022 オンラインフェス」がYouTube ライブ配信により行われた。活動事例発表として、C系 澤井助教が「ほしいも残渣の堆肥化に伴う悪臭の緩和技術の開発」というテーマで発表した。

#### ⑤大洗町教育委員会との連携

令和2年度より必修化された小学校プログラミング教育の教材を、大洗町教育委員会とともに開発し支援することを目的とした「小学校プログラミング教育教材製作プロジェクト」を継続して実施。新型コロナウイルス感染症の影響により模擬授業は実施できなかったが、製作する教材の対象学年を拡大し、教材の充実を図った。

#### ⑥科学研究費助成事業講習会の開催

開催せず

#### ⑦研究推進委員会の開催

令和3年度は11回実施した。開催日時と議題は下記のとおり。

1) 第1回：令和3年4月5日（月）メール審議（4月8日（木）17時期限）

議題【審議事項】

1. 令和3年度高専一長岡技科大共同研究の申請順位について（申請2件）

2) 第2回：令和3年5月11日（火）

議題【審議事項】

1. 科研費申請率、採択率あげる施策について

2. その他の研究（共同研究、外部資金、論文・プレスリリース）推進について

3. 学内の研究補助費について

3) 第3回：令和3年5月21日（金）メール審議（5月27日（木）17時期限）

議題【審議事項】

1. 茨城工業高等専門学校地域共同テクノセンター実験室等利用細則の一部改正（審議内容：改正の可・否）

2. 茨城工業高等専門学校地域共同テクノセンター計測機器管理・使用細則の廃止（審議内容：改正の可・否）

3. 茨城工業高等専門学校地域共同テクノセンター走査電子顕微鏡管理・使用細則の廃止（審議内容：改正の可・否）

4) 第4回：令和3年8月31日（火）メール審議（9月3日（金）17時期限）

議題【審議事項】

1. 知的財産権の譲渡について（審議内容：譲渡の可・否）

2. 特許の権利放棄（維持年金の支払いをしない）について（審議内容：権利放棄の

可・否)

3. 特許の権利放棄（審査請求をしない）について（審議内容：権利放棄の可・否）

5) 第5回：令和3年9月22日（水）メール審議（9月29日（水）17時期限）

議題【審議事項】

1. 特許の権利放棄（維持年金の支払いをしない）について（審議内容：権利放棄の可・否）

6) 第6回：令和3年10月26日（火）

議題【審議事項】

1. R4年度科研費申請関係  
2. 研究成果発信支援について

7) 第7回：令和3年11月16日（火）

議題【審議事項】

1. 研究推進経費  
a) 研究成果発信支援事業  
b) 科研費採択支援  
c) 研究推進支援  
2. 知的財産権の機構承継について

8) 第8回：令和3年12月21日（火）

議題【審議事項】

1. 研究推進支援応募状況および審査について  
2. 知的財産の譲渡について  
3. 令和3年度研究彙報第57号への研究論文の投稿募集について

9) 第9回：令和4年1月18日（火）メール審議（1月21日（金）17時期限）

議題【審議事項】

1. 保有特許等に関する調査の回答について（審議内容：回答案の可・否）

10) 第10回：令和4年2月28日（月）メール審議（3月4日（金）17時期限）

議題【審議事項】

1. 特許の権利放棄（維持年金の支払いをしない）について（審議内容：権利放棄の可・否）  
2. 10号館（専攻科棟）3階プロジェクト実験室1, 2, 3の利用申請について（審議内容：利用許可の可・否）

11) 第11回：令和4年3月25日（金）メール審議（3月31日（木）12時期限）

議題【審議事項】

1. 研究彙報57号（令和3年度）への投稿論文6本について  
（審議内容：研究彙報への掲載の可・否）

## 【研究協力・地域連携係関係】

### ①国内の大学等との連携協定に係る事業

#### 1)筑波大学との連携協定に基づく活動

筑波大学との連携協定に基づき「グローバル工学基礎（PBL 演習）」へ大学院留学生（システム情報工学研究群（科）5人）をティーチングアシスタント(TA)として受け入れ、本校授業の教育指導等を行うことで交流を図った。

また、例年行っている茨城高専専攻科生のインターンシップについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止した。

### ②外部資金の受入

#### 令和3年度外部資金受入一覧（件数と受入金額）

資金種別	受入件数	受入金額（円）	備考
共同研究	15件	8,601,180円	茨城高専に入金がないものは含まない。
受託研究	0件	0円	
受託事業	0件	0円	ひたちなか市放課後子ども教室
補助金	0件	0円	
研究助成金	7件	5,979,000円	
寄附金	9件	1,967,000円	教育研究基金9件を含む。
受託試験料	0件	0円	
技術相談料	0件	0円	
科研費	20件	直接 15,780,000円 間接 4,734,000円	補助金1件、基金16件、分担金3件

### ③researchmapへの登録

教員に対して researchmap への登録を依頼し全教員の登録を確認した。

## (2) 自己評価（改善含む）及び課題

① 茨城高専ギャラリーは、MIPPE（地域相互誘起型課題解決実践教育プログラム）企業PR動画審査会を実施した。

② ジョブセミナーは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点からオンライン開催としたが、オンデマンドの利便性があり、今後もオンラインでの開催による利便性の向上と負担の軽減を検討する。

③ 今年度、ひたちなか市との連携事業として学童クラブ育成支援充実事業が実施され、ひたちなか市や参加者から高評価をいただいている。来年度以降も継続していくことで、地元におけるプレゼンスの向上につなげていく。

- ④ 小学校プログラミング教育において、ひたちなか市及び大洗町と協力事業を行った。この取り組みについては高専機構も推進しており、今後、この事業を拡充していくための体制整備が必要である。

### (3) 今後の展開

教育・研究は、それ自体が長期的観点からの社会貢献であるが、公開講座や産学官連携等を通じた、より直接的な貢献が求められており、こうした社会貢献について茨城高専が社会・地域に還元すること・できることを考え、地域の活性化に繋げていく。

昨今の社会や経済的環境の変化に対応するために、これからの高専には地域産業への貢献や地域創生の機能を取り込むことが期待されている。これまで果たしてきた人材育成中心の役割に加えて、地域産業や自治体との高度な連携が必要になる。ひたちなか市をはじめとする地元自治体や地元企業との連携を強化していくことによって、地域社会のDX及びSDGsに高専が貢献し、その活動を通して、高専学生の教育においても効果を上げていくことが期待できる。



### 1 3. 教育組織(教員任用審査会)

#### (1) 取組実績

##### ① 採用

- ・ 令和3年10月1日付けで、後任補充として、化学・生物・環境系に准教授1人を採用した。
- ・ 令和4年4月1日付けで、後任補充として、情報系に助教1人を採用した。
- ・ 令和4年4月1日付けで、人事異動に伴う代替教員として化学・生物・環境系に准教授1人を採用した。

##### ② 昇任

- ・ 系・部から推薦のあった候補者1人に対し審査を実施し、令和3年10月1日付けで准教授1人の昇任人事を実施した。
- ・ 系・部から推薦のあった候補者1人に対し審査を実施し、令和4年4月1日付けで教授1人の昇任人事を実施した。

##### ③ 命免(職務附加)

- ・ 令和4年4月1日付けで、電気・電子系教授1人を専門共通教育部勤務及び電気・電子系担当とした。

##### ④ 再雇用

- ・ 令和4年度再雇用を希望する教員2人に対し、所属系長等から提出された再雇用計画の審査を行い、同人らの再雇用を承認した。

##### ⑤ 特命教員

- ・ 令和4年2月1日付けで、外国人留学生サポート体制の構築に係る事業に携わる者として、専門共通教育部に特命助教1人を採用し、一般教養部担当とした。
- ・ 令和3年度末に雇用契約期間満了となる者を除き、各事業に対応するために雇用された特命教員6人全員について契約更新を行うことが確認された。

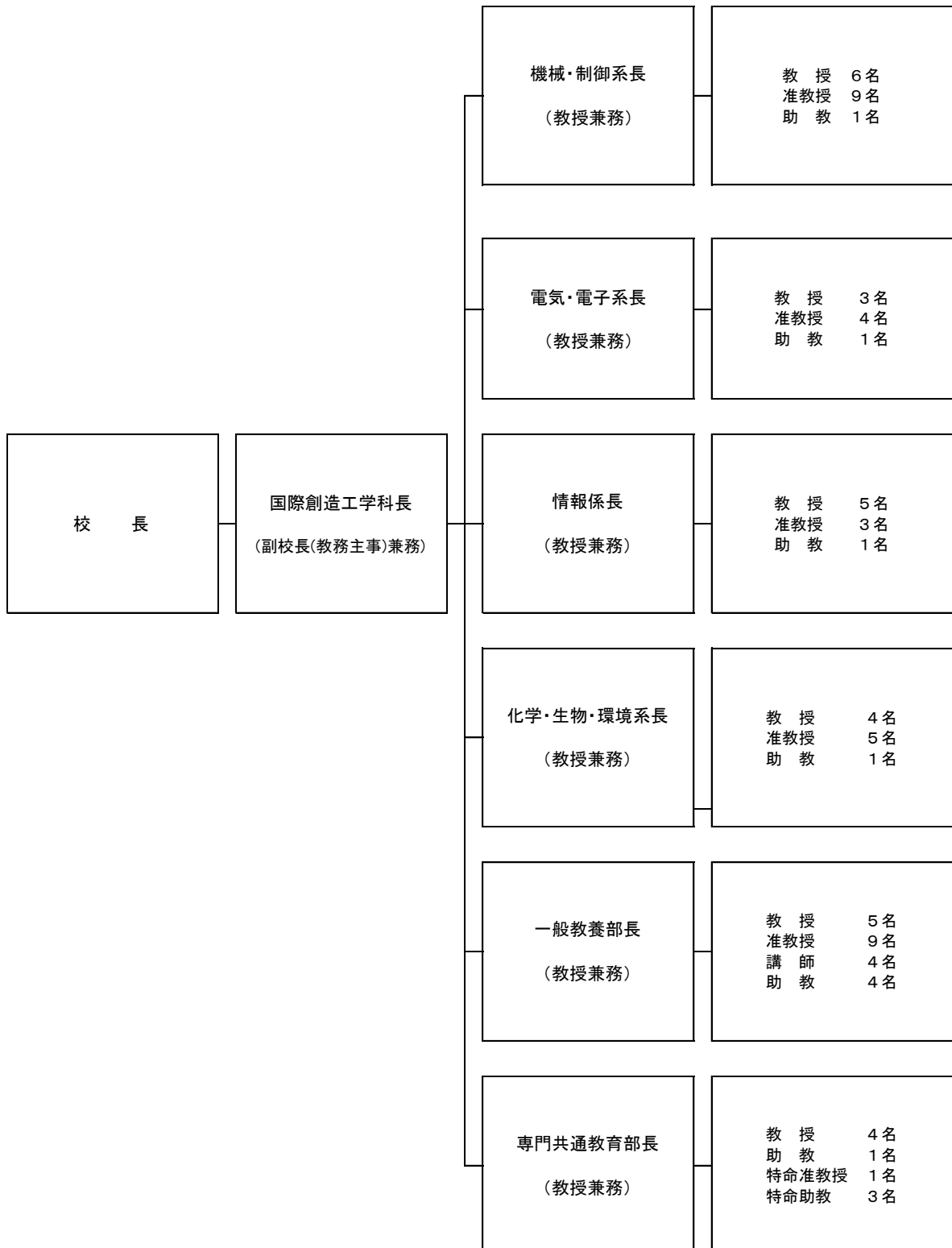
##### ⑥ 非常勤講師

- ・ 令和3年9月1日付けで、集中講義科目を担当する非常勤講師1人を採用した。
- ・ 令和3年9月21日付けで、通年開講授業科目の前期開講分を担当していた非常勤講師1人について契約更新を行い、後期開講分についても担当させることとした。
- ・ 令和3年9月21日付けで、後期開講授業科目を担当する非常勤講師2人を採用した。
- ・ 令和3年10月1日付けで、後期開講授業科目を担当する非常勤講師1人を採用した。

- 各系等から推薦のあった令和4年度非常勤講師候補者について審査を行い、令和4年度は37人の非常勤講師について、契約更新又は採用することを承認した。

## 教育職員 配置図

令和4年4月1日現在



## 1 4. 教育支援組織(事務部)

### (1) 取組実績

#### ① 採用

- ・ 令和3年6月1日付けで、後任補充として、総務課研究協力・地域連携係に係員1人を採用した。
- ・ 令和4年4月1日付けで、人事交流により茨城大学から係長級1人を受入れ、総務課人事・労務係長として配置した。

#### ② 昇任

- ・ 令和3年7月1日付けで、以下のとおり実施した。
  - ・ 学生課教務係員を総務課人事・労務係人事・労務主任へ昇任させた。
  - ・ 総務課財務係員を総務課財務係財務主任へ昇任させた。
  - ・ 総務課用度係員を学生課教務係教務主任へ昇任させた。
  - ・ 学生課学生支援係員を学生課学生支援係学生支援主任へ昇任させた。

#### ③ 配置換・課内異動

- ・ 令和3年7月1日付けで、総務課人事・労務係員を総務課用度係に課内異動させた。
- ・ 令和4年4月1日付けで、以下のとおり実施した。
  - ・ 総務課研究協力・地域連携係長を本部事務局研究推進課研究推進係長に配置換した。
  - ・ 総務課財務係長を総務課研究協力・地域連携係長に配置換した。
  - ・ 学生課寮務係長を総務課財務係長に配置換した。
  - ・ 学生課学生支援係長を学生課入試係長に配置換した。
  - ・ 総務課人事・労務係長を学生課学生支援係長に配置換した。
  - ・ 学生課教務係員を学生課入試係に課内異動させた。

#### ④ 兼務

- ・ 令和4年4月1日付けで、学生課学生支援係長に学生課寮務係長を兼務させた。

#### ⑤ 再雇用

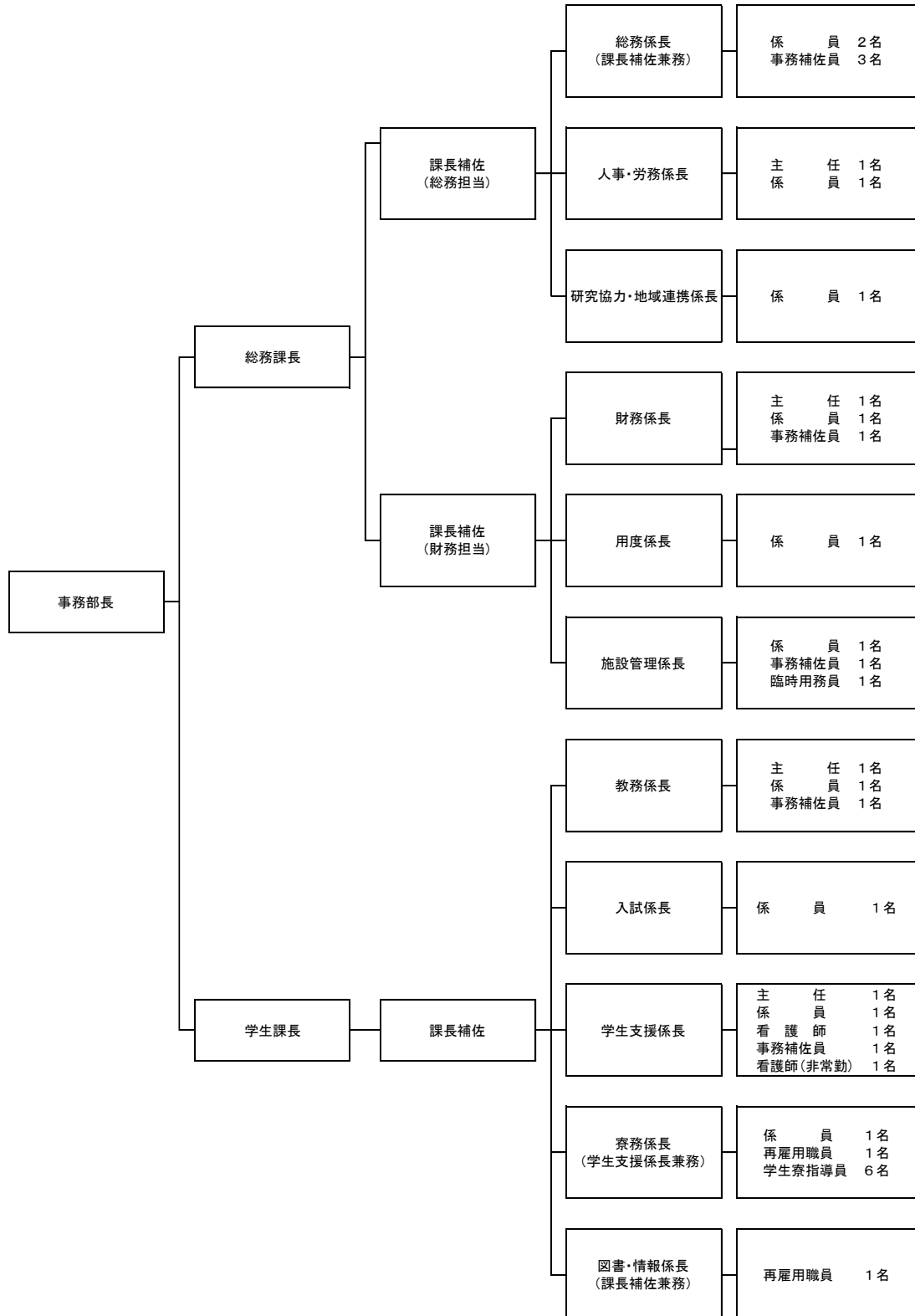
- ・ 令和4年度に本校での再雇用を希望する他高専の事務職員1人を、キャリア支援室に再雇用した。
- ・ 令和4年4月1日付けで、学生課寮務係及び学生課図書・情報係の再雇用職員各1人の再雇用契約を更新した。

⑤ 非常勤

- ・ 令和3年8月1日付けで、後任補充として学生課学生支援係に事務補佐員1人を採用した。
- ・ 令和3年9月1日付けで、広報業務に対応するための事務補佐員1人を採用した。
- ・ 令和4年1月1日付けで、女性研究者等キャリア支援（研究支援員配置）事業を担当するため、電気・電子系に研究支援員2名を採用した。
- ・ 令和4年4月1日付けで、以下のとおり実施した。
  - ・ 後任補充として事務補佐員、産業医、カウンセラー、学生寮指導員を各1人採用した。
  - ・ 学生支援体制の強化を図るため、スクールソーシャルワーカーを1人採用した。
  - ・ 非常勤職員12人（事務補佐員4人、臨時用務員1人、カウンセラー1人、看護師1人、学生寮指導員5人）の契約を更新した。
  - ・ 事務補佐員1人が無期労働契約に転換した。

## 事務職員 配置図

令和4年4月1日現在

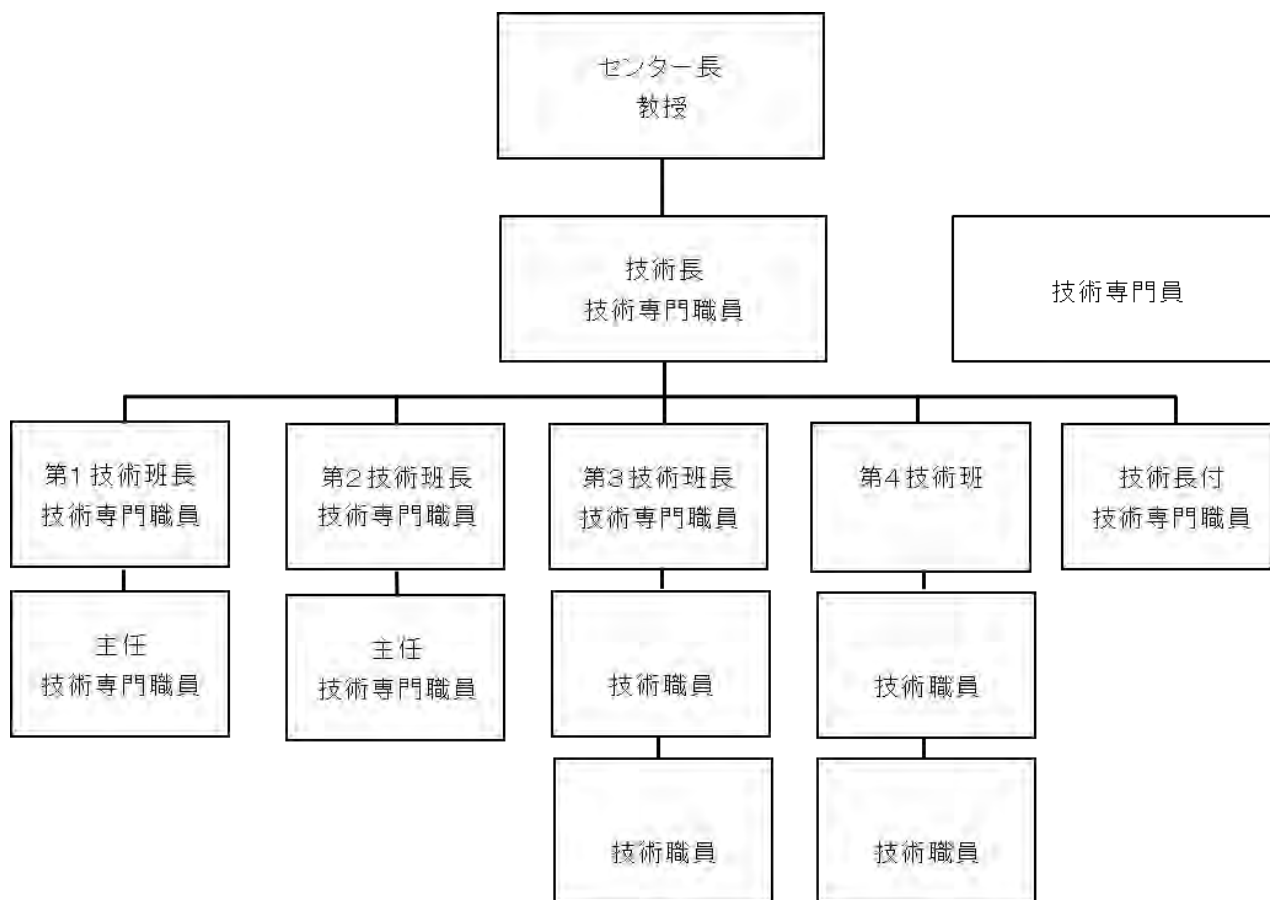


## 15. 教育支援組織（技術教育支援センター）

### （1）取組実績

技術教育支援センターは、本校の教育・研究支援に関する業務の円滑な運営及び管理運営等への技術支援体制の充実を図るとともに、本校技術職員の職務遂行に必要な能力及び資質の向上を図り、もって本校の教育・研究に資することを目的とする。

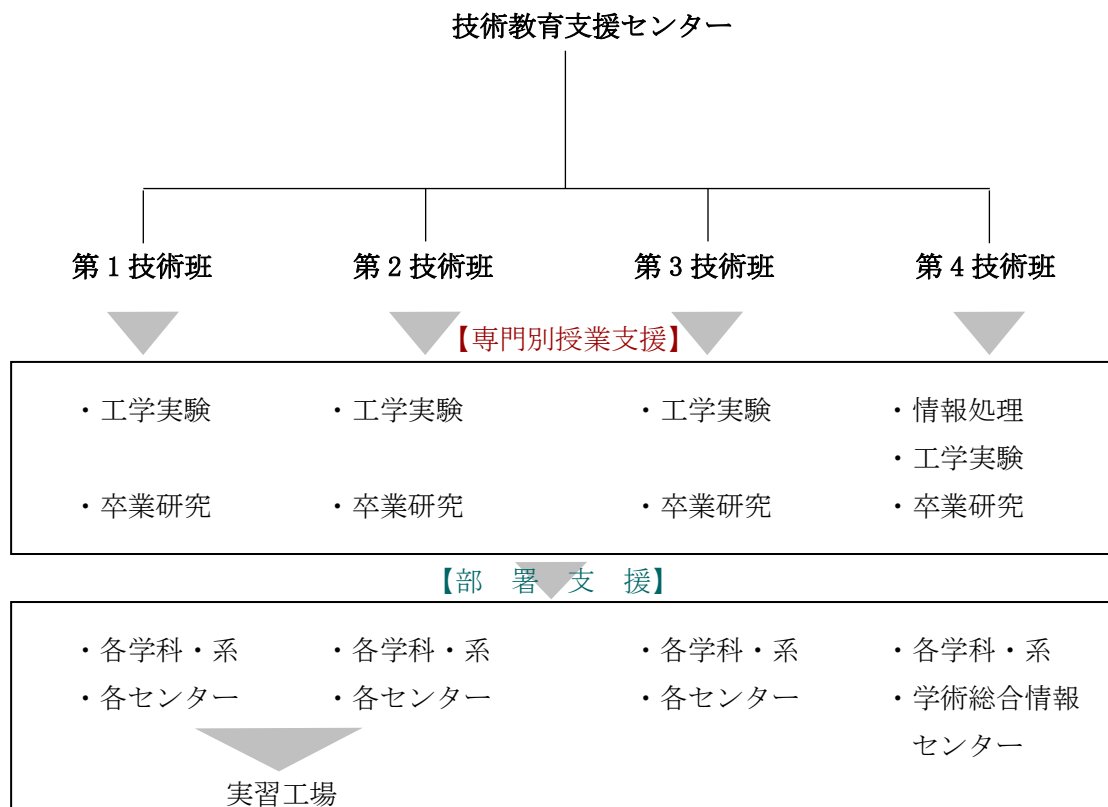
#### ①組織



技術教育支援センター組織構成図（令和4年1月31日現在）

#### ②職務内容

- 1) 技術教育支援センターとしての全般的業務
- 2) 各班の業務
  - イ. 担当と関連する業務の依頼、相談等の窓口
  - ロ. 研修会、公開講座等の企画、実施
- 3) 職務遂行部署（個人の活動部署）



### ③活動報告

#### 1) 授業等への支援

支援業務の中核となる実験、実習、演習等への支援は、令和3年度始め前に各学科、各部署から要請を受け、それらを調整し技術教育支援センター技術職員週間スケジュール表にまとめ原案作成を行った。その後運営会議の了承を得て支援業務を実施した。

#### 2) 製作, 作業支援

“ものづくり”の拠点となる実習工場への期待と需要は年々高まる傾向にあり、依頼製作における形状の複雑化が顕著となっている。卒業研究（本科）、特別研究（専攻科）及び教員研究に伴う製作支援など全学科のみならず、エコランカー、レース用EVフレームの製作依頼等も増加の傾向にある。また、物質系分野では水質分析を行うなど多岐に渡り手がけた。

### ④講習会等の開催報告

本センターでは支援業務の一環として部活・同好会の学生を対象とした基本機械操作講習会を定期的に行っている。令和3年度は6月に開催した。

名 称：基本機械操作講習会



実施期間：令和3年6月14日（月）・21日（月）・28日（月）  
実施方法：対面方式での講習  
講習会場：実習工場  
対 象：ロボット部  
講習内容：1. ケガキの使い方、ポンチの打ち方、ボール盤の使用法  
2. バンドソーの使用法  
3. 小型フライス盤の使用法  
4. ヤスリの使用法  
指 導 者：実習工場技術職員（棚井・山縣・柴田・樋田）

名 称：基本機械操作講習会（ボール盤作業）  
実施期間：令和3年6月23日（水）・30日（水）  
実施方法：対面方式での講習  
講習会場：実習工場  
対 象：A-Lab  
講習内容：ケガキの使い方、ポンチの打ち方、ボール盤の使用法  
指 導 者：実習工場技術職員（棚井・山縣・柴田・樋田）

#### ⑤研修会・講習会・学会等の参加報告

令和3年度中に種々の講習会が開催された。情報共有やスキル向上などを目的として本センター職員が参加したものを以下に記す。

名 称：東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会（情報系）  
主 催：鶴岡工業高等専門学校  
日 程：令和3年8月18日（水）～20日（金）  
実施方法：Microsoft Teams を使用したオンライン研修  
出席者：豊田

名 称：令和3年度関東信越地区国立高等専門学校技術職員研修会（電子・情報・制御系）  
主 催：群馬工業高等専門学校  
日 程：令和3年9月8日（水）～10日（金）  
実施方法：Microsoft Teams を使用したオンライン研修  
出席者：棚井

名 称：IT人材育成研修会  
主 催：独立行政法人国立高等専門学校機構本部

日 程 : 令和3年10月21日(木)～22日(金)  
実施方法: Microsoft Teamsを使用したオンライン研修  
出席者 : 豊田

名 称 : 国立高等専門学校機構情報担当者研修会  
主 催 : 独立行政法人国立高等専門学校機構本部  
日 程 : 令和3年12月1日(水)  
実施方法: Microsoft Teamsを使用したオンライン研修  
出席者 : 鈴木・豊田

名 称 : 関東信越地区高等専門学校情報処理教育研究委員会  
主 催 : 東京工業高等専門学校  
日 程 : 令和3年12月21日(火)  
実施方法: Microsoft Teamsを使用したオンライン研修  
出席者 : 鈴木・豊田

名 称 : 全国国立工業高等専門学校技術長等会議  
主 催 : 有明工業高等専門学校  
日 程 : 令和4年3月2日(水)  
実施方法: Microsoft Teamsを使用したオンライン形式  
出席者 : 島田・棚井

#### ⑥茨城高専おもしろ科学セミナー2021

#### ⑦青少年のための科学の祭典ひたちなか大会 2021

上記のおもしろ科学セミナーおよび科学の祭典について例年出展していたが、社会情勢を鑑み令和3年度は出典を見送った。

#### ⑧会議開催の記録

##### (1) 令和3年度技術教育センター管理運営会議

令和3年度は情勢を鑑み対面会議ではなく資料での回覧形式とした。以下に回覧した報告事項を示す。

1. 令和2年度技術教育支援センター活動報告書
2. 令和3年度の活動について
  - (a) 令和3年度技術職員週間スケジュール
  - (b) 科学研究費申請へ応募
  - (c) 地域貢献活動

- ・おもしろ科学セミナー 8月21日（金） コロナの影響で中止
- ・青少年のための科学の祭典 11月予定 コロナの影響で中止

3. 令和3年度研修及び会議

- (a) 令和3年度東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会（情報系）  
長岡技術科学大学 8月18日（水）～20日（金）
- (b) 令和3年度関東信越地区国立工業高等専門学校技術長会議  
茨城高専 8月20日
- (c) 令和3年度関東信越地区国立高等専門学校技術職員研修会  
群馬高専 9月9日（木）～10日（金）

4. 技術教育支援センターニュースの配信継続

(2) 技術教育支援センター会議

令和2年度同様コロナ情勢を鑑み、集合形式での会議は見送った。これに伴い、必要に応じてメール・回覧等による連絡を行った。

⑨技術教育支援センター 技術職員 保有資格状況

知識・技量の証明の一つの指標として積極的な取得を推進している。

\* 複数資格取得者含む

令和3年 4月1日 現在

分類	資格名	取得者数
職業訓練指導員	職業訓練指導員（機械）	4
	職業訓練指導員（電気）	2
	職業訓練指導員（化学分析）	1
技能士	特級機械加工技能士	1
	特級機械保全技能士	1
	1級機械加工技能士（普通旋盤作業）	2
	1級化学分析技能士	1
作業環境測定士	第1種作業環境測定士（鉱物性粉じん）	1
	第1種作業環境測定士（特定化学物質）	1
	第1種作業環境測定士（金属類）	1
	第1種作業環境測定士（有機溶剤）	1
衛生管理者	第1種衛生管理者	5
作業主任者	エックス線作業主任者	1
	特定化学物質等作業主任者	2

	鉛作業主任者	1
	有機溶剤作業主任者	1
特別教育 インストラクター	局所排気装置等定期自主検査 インストラクター	1
電気工事士	第2種電気工事士	2
電気通信設備工事担任者	アナログ第3種工事担任者	1
教員免許	中学校教諭免許状（理科）	1
	高等学校教諭免許状（理科）	1
	中学校教諭免許状（数学）	1
	高等学校教諭免許状（数学）	1
毒劇物取扱責任者	毒劇物取扱責任者	2
危険物取扱者	甲種危険物取扱者	1
	乙種第4類危険物取扱者	7
特別管理産業廃棄物 管理責任者	特別管理産業廃棄物管理責任者	1
技能講習	ガス溶接技能講習	3
	玉掛け技能講習	1
	フォークリフト運転技能講習	1
特別教育	アーク溶接特別教育	2
	自由研削砥石特別教育	5
	機械研削砥石特別教育	2
	プレス・シャー金型交換特別教育	2
	特定粉じん作業特別教育	5
	クレーン運転業務特別教育（5トン未満）	1
情報技術者	基本情報技術者	1
	第2種情報処理技術者	2
	HDBaseT インストーラーエキスパート	1
CAD 利用技術者試験	2次元 CAD 利用技術者試験 2級	1
ビジネス・キャリア検定	2級生産管理オペレーション （作業・工程・設備管理）	1

## （2）自己評価及び課題

①令和3年度は新型コロナウイルス感染防止策の一環として、本校主催のイベント（おもしろ科学セミナーなど）、ひたちなか市主催のイベント（科学の祭典）等が中止になりました。今年はコロナ禍の影響を受けつつも、正常化に向けて準備を進める予定です。

②コロナ禍の際中にも関わらず、他の部署と連携をとりながら、実習工場の改修工事の計画を立案して執行した。更はその計画に対応した学生実験及び実習・演習等のスケジュールを組んで実施した。

### (3) 今後の展開

#### ①技術教育支援センターの長期ビジョンの策定

職員のスキル向上および最新の技術・教育の習得に努め、多様化するニーズに即応した技術教育支援の実現に向けて、その基礎を作る。具体的には研修会や講習会、資格取得といった機会を積極的に活用して、スタッフの技術と知識の向上を図ると共に、常に見識を広げ、近年の様々な要望に対応できるように努める。更に昨今高機能化した実習工場の設備や環境を活用して、将来の技術支援能力の向上を図る。

#### ②国立高専機構中期目標・計画及び年度計画ならびに茨城高専年度計画に沿った指針

技術職員の資質向上に向けた学会発表や研修会、他機関との交流の積極的な推進や科研費をはじめとした外部資金の獲得を目指す。加えて技術のグローバル化に合せた支援体制の構築を図る。

#### ③多岐に渡る支援業務への対応

個々の技術を活かして、センターとして多種多様な支援を円滑に行う。

#### ④地域貢献と広報活動の活発化

小中学生向けのイベントや公開講座などの地域貢献活動に取り組むことや、技術教育支援センターニュース（年2回程度）の発行など、センターの活動内容をウェブサイトで発信する。

## 16. 予算及び施設・整備（総務委員会）

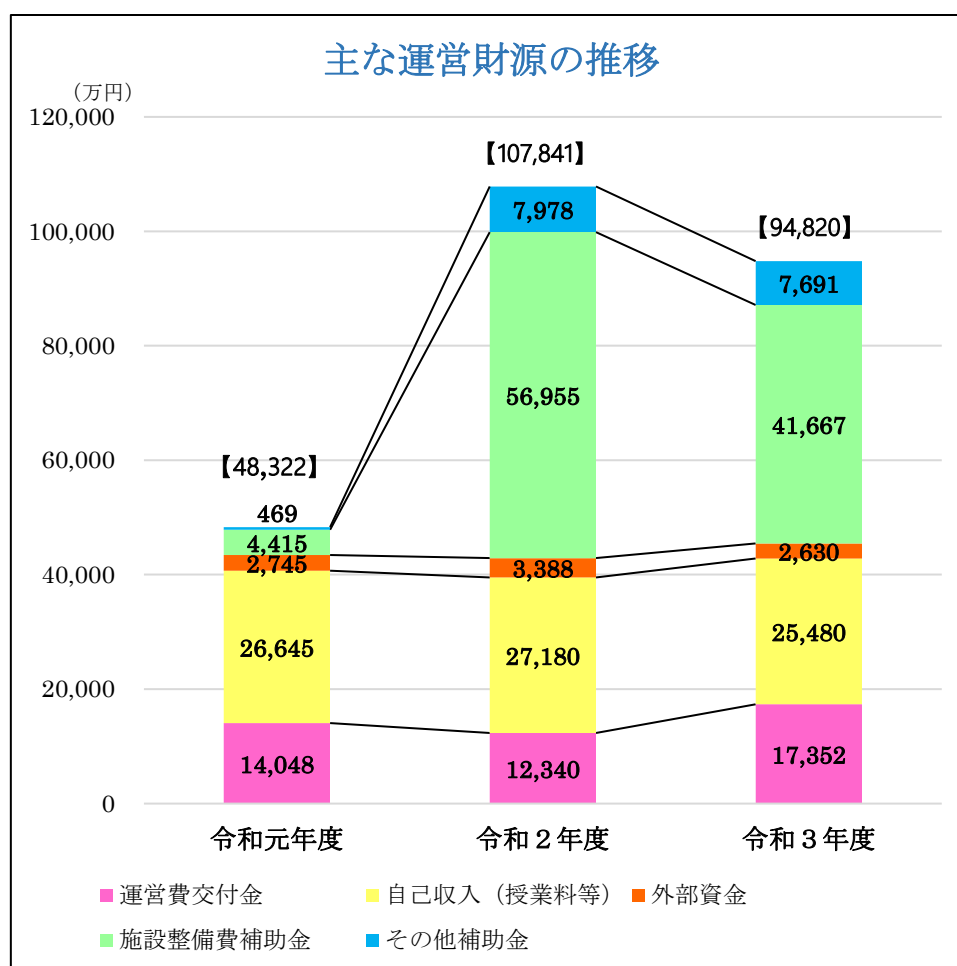
### （1）取組実績

#### ①総事業費（収入額）の概況

令和3年度の総事業費（収入額）は、前年度より1億3021万円減少し9億4820万円となりました。減少の主な要因は、国からの資金が主である施設整備費補助金収入（△1億5288万円）の減少です。

一方で、運営費交付金収入の増加（+5012万円）の主な要因として、国際寮（虹友館）建物新営・実習工場改修工事に伴う建物新営設備及び移転費等の増加によるものです。

また、その他補助金収入については、令和2年度以降に国からの資金である設備整備費補助金収入（機械設備導入：R2/6件、R3/4件）が大きく増加しています。

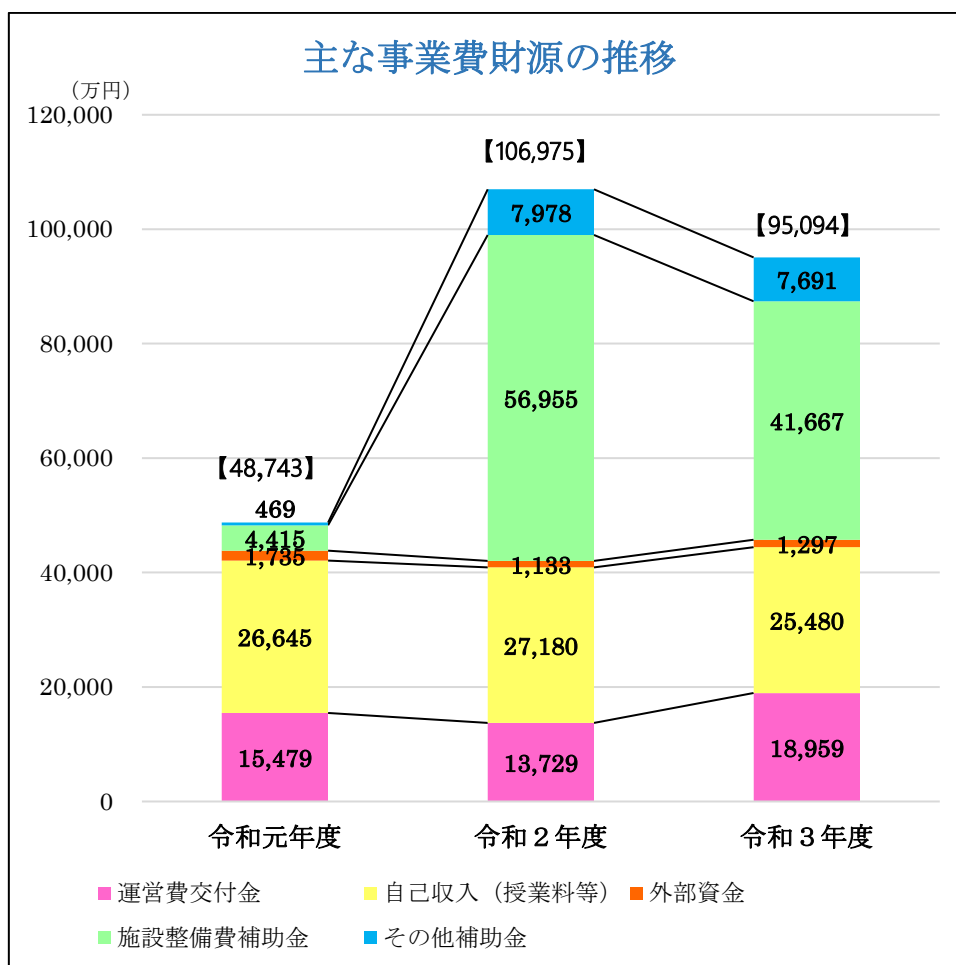


#### ②総事業費（支出額）の概況

令和3年度の総事業費（支出額）は、前年度より1億1881万円減少し9億5094万円となりました。減少の主な要因は、施設整備費補助金事業（△1億5288万円）の減少です。

施設整備補助金事業費の支出内容として、令和2年度はライフライン再生（給排水設備、電気設備）及び図書館改修を整備し、国際寮（虹友館）工事の前金払いを支出しました。令和3年度は国際寮（虹友館）の完成払い及び実習工場改修を支出し整備しました。

一方で、運営費交付金収入の増加（+5230万円）の主な要因として、国際寮（虹友館）建物新営・実習工場改修に伴う建物新営設備及び移転費等の増加によるものです。



### ③ 予算

運営費交付金事業の予算については、運営交付金算定ルールによる効率化の減額が続く厳しい状況の中、当初配分方針に基づき教育の質が落ちないように学科（各部・系）等への配分基準額は現状維持に努め当初配分を行った。当初配分では毎年減額が続いているものの決算時の予算執行残額調整の精度を上げ、機構本部からのインセンティブや計画的な採用抑制への取り組み等を図ることで教育改革推進経費の増額に努め追加配分（15百万円）を獲得することが出来た。

また、11月末日で予算執行を締め切り、残予算を有効活用するために集約し一般教養部・系等への機器等更新（15百万円）を行ったほか、教育研究活動及び施設維持管理に対応し

た整備（15 百万円）を実施することで、予算の有効活用を推進した。

さらに、期末執行集中防止と効果的な活用を促進するため昨年度予算実績の 50%を 4 月に配分し、校長のリーダーシップの下、戦略的かつ計画的な学校運営を行うことが出来た。

外部資金の獲得については、外部機関等との積極的な連携・協力により、教育研究支援基金や共同研究、受託研究に繋げる活動を積極的に実施した。

#### ⑤ 施設・整備

国立高専機構施設整備の中期的施設計画である「国立高専機構施設整備 5 か年計画 2021（令和 3 年度～7 年度）」により令和 3 年度は国からの施設整備費補助金交付を受け、前年度から繰り越した国際寮（虹友館）新営工事（493 百万円）及び実習工場改修工事（114 百万円）を完成させ、新たに 9 号館改修工事（94 百万円）を進めている。

また、国立高専機構営繕事業において図書館耐震補強改修工事（24 百万円）を施工したほか、機構本部から予算配分された教育等施設基盤経費 42 百万円を施設維持管理費の施設関係に全額配分することで安心・安全な教育研究環境の確保及び高専教育の国際化への基盤整備に努めた。

整備計画としては、キャンパスマスタープラン 2018 に基づき、老朽化の著しい施設の改修、学習環境整備及び緑地管理を実施したほか、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の防止に向けて衛生環境の改善を実施した。

## （2）自己評価（改善含む）及び課題

### ① 予算

毎年配分される運営費交付金（管理運営費等）の額は減少しているほか、施設維持管理費及び光熱水費の増加傾向が続く中、教育の質を維持するため本校では集約予算を有効活用し学生の実験実習の経費に追加配分することで、平成 16 年度並みの学科（各部・系）等教育研究経費を維持している。集約予算については、その半分が追加配分の教育改革推進経費で占めている為、機構本部で考えている教育改革推進経費の加減額が影響されている。今後は文部科学省や高専機構の新しい政策に取り組み、地域や社会の要請を敏感にとらえ、外部資金の導入促進など財源の多様化のための取り組みを推進し、必要な財源確保に最大限努力していくことが必要である。

また、経常経費の圧縮が喫緊の課題となり、光熱水費の抑制のほか、特に委員会等経費については、前年度を踏襲した予算要求が数多く見られることから、必要性・緊急性並びに教育効果等を十分検討した上で、学校全体の為に有効活用するよう意識改革させることが今後の課題である。

### ② 施設・整備

キャンパスマスタープラン 2018 に基づき、教育研究環境の改善及びキャンパス整備を上



記取組実績のとおり計画的に実施した。

なお、老朽化した既存設備については、多様な財源の活用も視野に入れ計画的に整備を行う必要があり、適切な維持管理を行い、設備の長寿命化を図る必要がある。

また、高専機構施設整備5か年計画2021が策定されたのを受け、本校10年計画WGのキャンパスマスタープラン部会において施設整備計画の見直しを図りつつ、キャンパスマスタープランの更新を検討している。

今後は、施設整備の充実に取り組みを行い、質の高い安全な教育研究環境の確保とともに、教育の高度化、国際化並びにSDGsに対応した施設整備を進める必要がある。

### (3) 今後の展開

本校が質の高い実践的・創造的技術者育成教育を行うことができるよう、基盤的な環境の整備を図る上で、運営費交付金や学生納付金以外から多様な財源の確保に努めていき、無駄な予算執行を極力抑えていけるように教職員一体となって意識改革を行っていく必要がある。

## 17. 安全衛生管理（安全衛生委員会）

### （1）取組実績

安全衛生委員会では、年間安全衛生推進計画を策定し、同計画に基づき実施及び実施状況の確認を行っている。

以下は、同計画の実施項目に沿った実績報告である。

#### ①安全衛生管理

##### 1) 安全衛生委員会の開催

法令に基づき、毎月1回安全衛生委員会を開催した。

##### 2) 職場巡視の実施

法令に基づき、衛生管理者及び産業医による職場巡視を実施し、4S（整理・整頓・清掃・清潔）を推進した。

指摘があった事項については、安全衛生委員会へ報告の上、是正措置を講じた。

##### 3) 4S（整理・整頓・清掃・清潔）推進に伴う赤札作戦の実施について

12月～1月にかけて赤札作戦を実施し、不要物品の洗い出し及び廃棄を実施した。

#### ②安全衛生啓発活動及び訓練

##### 1) 各種行事等の周知

全国安全週間、全国労働衛生週間、年末年始無災害運動、全国交通安全運動の各行事について学内周知を行い、教職員への啓発を実施した。

##### 2) 自衛消防訓練、初期消火訓練の実施について

10月に全学生、全教職員を対象として自衛消防訓練、初期消火訓練を実施した。

##### 3) 学寮避難訓練の実施について

4月及び10月に学生寮における避難訓練を実施した。

#### ③心と体の健康づくり

##### 1) 健康診断の実施

法令に基づき、定期健康診断、特殊健康診断、特殊歯科検診等の各種健康診断を実施し、受診可能な者（人間ドック受診により定期健康診断受診に替える者を含む。）は全員が受診した。

また、産業医が健康診断結果を確認し、必要と認める者に対しては健康指導等を実施した。

##### 2) ストレスチェックの実施

法令に基づき、ストレスチェックを実施した。

高ストレス者については、希望者を対象として産業医による面接指導を実施した。

### 3) 感染症予防事業の実施について

感染症対策事業として、インフルエンザ予防接種を実施した。

#### ④安全衛生教育

##### 1) 「学校安全の心得」の配付

例年、グループウェア・サイボウズにより電子版を掲載し、教職員が閲覧可能な状態にしている。

##### 2) 「実験実習安全必携」の配付

Google ドライブを活用し、全学生に対し電子データによる配付を行った。

#### ⑤機械、薬品等の定期点検による安全確保

##### 1) 機械の特定自主検査等の実施

対象機械について、特定自主検査を実施した。

##### 2) エックス線発生装置の点検実施

エックス線発生装置の点検を実施し、異常がないことを確認した。

##### 3) 薬品使用状況及び廃液の点検

薬品管理システムにより薬品管理を実施するとともに、実験等による薬品廃液については、回業者へ委託し廃棄処理をした。

##### 4) 作業環境測定及び大気環境中のアスベスト濃度測定の実施

9月及び3月に、本校の作業環境測定士を中心として上記測定を実施した。

##### 5) 局所排気装置の点検

法令に基づき、局所排気装置の点検を実施した。

#### ⑥その他

##### 1) 組換えDNA実験実施計画の承認

組換えDNA実験安全専門部会から、新規組換えDNA実験実施計画（全件機関届出実験）について報告を受けた。

##### 2) 有害業務等従事状況調査の実施について

教員及び技術教育支援センター所属の技術職員を対象に、有害業務等従事状況調査を実施した。

## (2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 人間ドック受診により定期健康診断受診に替える者を含め、該当者全員が定期健康診断を受診できており、引き続きこの状況を維持できるようにする。

- ② 衛生管理者能力向上教育への衛生管理者派遣について、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、今年度も派遣を見送ったが、最新情報の取得や最近の動向把握にも役立つため、継続的に実施していく必要がある。
- ③ 普通救命講習会の実施について、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度も実施を見送ったが、教職員の救急救命措置能力の習得・向上のため、定期的にも実施していく必要がある。

### (3) 今後の展開

- ① 学科改組により教員組織の構成員及び教員室の場所が変更となる可能性があったため、対応を見送っていた①「学校安全の心得」の改定作業、②実験室使用者及び薬品使用状況調査を実施する必要がある。
- ② 作業環境測定士等の有資格者を複数人確保し、当該有資格者の業務負担軽減及び当該有資格者が対応困難な際の相互補完が可能な体制を構築する。

## 18. 自己点検・評価（自己点検・評価委員会）

### （1）取組実績

自己点検・評価については、各事項を所掌する委員会等で行うこととなっており、それを総合して点検・評価する組織として自己点検・評価委員会を設置している。

当委員会では、主に教育点検・評価システムの検討及び改善、外部評価の受審、年度計画実績の評価等を行っており、今年度は次の活動を行った。

#### ①授業評価アンケートの実施

前期開講科目は前期期末試験終了後に、後期開講科目及び通年開講科目について後期期末試験終了後に授業評価アンケートを実施した。アンケートは、原則全科目・全教科を対象として実施した。

個人の評価については、各系長等及び各個人にフィードバックし、全体の集計結果については、学生には掲示で公表した。

#### ②担任評価アンケートの実施

従前は希望により実施していた担任評価アンケートを、今年度から全担任に実施することに申合せを改正の上、年度末の授業最終週に実施した。

個人の評価については、各系長等及び各個人にフィードバックした。

#### ③学習指導法等の工夫・改善事例報告書の作成

前年度の授業評価アンケートで基準点を超えた教員から、授業での取り組みを記載した学習指導法等の工夫・改善事例報告書を提出してもらい、グループウェアに公表した。

なお、当該報告書を元に優れた取り組みを行った教員を教員表彰に推薦し、2人の教員が表彰された。

#### ④参加会の開催

本校以外の有識者に、教育研究活動等の状況についての評価及び助言等の提言をいただき、改善を行うことを目的とした参加会を次のとおり開催した。

- ・ 開催日：令和4年3月7日（月）
- ・ テーマ：「茨城高専の広報活動について」  
「茨城高専の教員人事評価について」  
「茨城高専の新事業（地域連携関係）の構築について」

#### ⑤FD研修会の開催

教員の教育改善・能力の向上を目的としてFD研修会を次のとおり開催した。

#### 第1回

- ・ 開催日：令和3年6月24日（木）
- ・ 題目：近年の学生就職事情・他高専での取り組み・キャリア支援の基本的事項
- ・ 講師：株式会社マイナビ 茨城キャリアサポート課課長  
三村 扶美子 氏

#### 第2回

- ・ 開催日：令和3年11月19日（金）
- ・ 題目：学生が活躍するための支援について
- ・ 講師：本校教員 講師 伊藤 昇 氏

#### 第3回

- ・ 開催日：令和3年12月27日（月）～令和4年1月31日（月）  
オンデマンド配信
- ・ 題目：ポートフォリオ教育が実現する新しい時代の学びと評価
- ・ 講師：東京学芸大学  
教授 森 本 康 彦 氏

### ⑥自己点検・評価委員会の開催

#### 第1回

開催日：令和3年6月24日（木）

- 議 題：1. 自己点検・評価委員会の業務について
2. 学生による担任評価アンケートに関する申合せの一部改正について
  3. 令和3年度前期分授業評価アンケート
  4. 令和3年度教員表彰の推薦者について
  5. 令和2年度卒業生・修了生アンケート結果
  6. 令和3年度参与会参与

#### 第2回

開催日：令和3年12月14日（火）

- 議 題：1. 令和3年度後期授業評価アンケートの実施について
2. 令和3年度担任評価アンケートについて
  3. 令和3年度参与会の開催について

### ⑦教育改善計画会議の開催

「教員相互による定期試験問題等のチェックに関する申合せ」に基づき、教育の改善内容について協議する、教育改善計画会議を次のとおり開催した。

開催日：令和4年3月16日（水）

議 題：定期試験問題及び授業改善計画書に基づく協議

## （2）自己評価（改善含む）及び課題

- ① 授業評価アンケートは、全教員へフィードバックし教育改善の一助とした。
- ② 今年度から担任評価アンケートを全担任対象として実施することに改善したため、全担任が学生からの評価を確認できることとなり、今後の担任業務改善の一助とした。
- ③ 学習指導法等の工夫・改善事例報告書を元に優秀な取り組みを行った教員2人を表彰したことにより、教員の教育改善の意欲を高める一助とした。
- ④ 参与会は、本校が重要課題として取り組んでいる「(1)茨城高専の広報活動、(2)茨城高専の教員人事評価、(3)茨城高専の新事業（地域連携関係）の構築」のテーマで開催し、各参与から本校の取り組みは概ね適切との評価をいただいた。助言のあった事項については、今後、改善に努めていく。
- ⑤ FD研修会は、(1)キャリア支援、(2)学生が活躍するための支援、(3)ポートフォリオ教育を題目として3回開催し、教育支援を推進するための一助とした。  
来年度もテーマを精査の上、実施していく。

## （3）今後の展開

現在、「教員相互による定期試験問題等のチェックに関する申合せ」等により教育の改善を行っているが、学生の学業不振者等の原因は多様化しているため、他の委員会等とも連携の上、教育改善の仕組みを見直ししていく予定である。